男一匹ガキ大将

万吉特少で大活躍の巻

第6巻

本宮ひろ志

男一匹ガキ大将

●第6巻●

本宮ひろ志

■万吉　特少で大活躍の巻

登場人物紹介と 前巻までの あらすじ

須永博（ヘルス）

六家の部屋長
黒沢

戸川万吉は子どもながら、西海に一千人の子分を持つ大番長だ。

浮浪者の総大将・カスミの大三郎と知りあった万吉は、全国の浮浪者を味方にすることに成功した。

浮浪者の頭・坊屋津光五郎までが万吉の軍師として全力をかそうというのである。

日本財界の大物・白川宇太郎の悪だくみで、故郷の西海村を焼かれたばかりでなく、警官隊まで、万吉逮捕に向わしたので、万吉の怒りは爆発した。

一千人の子分たちとともに、赤姫山に籠城し、警官隊と対決した。

万吉たちの守りはかたく、警官隊

眼帯の銀次

ガキ大将
戸川万吉

部屋長たち

は手も足もでなかった。

しかし、万吉は、堂どうと一千人の人びとともに自首する決意をした。

万吉は有罪となり特等少年院へ送られた。特等少年院とは重罪をおかした少年ばかりがいる収容所だ。

眼帯の銀次は普通の少年院に入れられ、万吉とわかれわかれになったのを、たいへん不満に思っている。

一刻でも早く親分といっしょになりたい希望にもえている。

万吉が入れられた部屋は六室で、恐ろしい黒沢部屋長のいるところだった。

世にも恐ろしい地獄の歓迎パーティーの殺人リンチが開始された。

三室の部屋長

島田鉄造

なん日もなん日も、おきていて、ねかせてもらえないわけだ。

万吉は歯をくいしばって頑張った。特少を支配する悪いおきてに挑戦し、これを打破しようと、一生懸命である。

綱村鉄次

特等少年院　院長

目次

男一匹ガキ大将 6
万吉 特少で大活躍の巻

太陽は沈まないの巻……8
処刑の部屋の巻……27
急げ！ 銀次の巻……46
万吉脱走の巻……68
よみがえる万吉の巻……86
総部屋長登場の巻……108
総部屋長の影の巻……130
幽霊名簿の巻……153
疑惑とあせりの巻……174

男一匹ガキ大将

太陽は沈まない の巻

部屋長
あんた
あの戸川万吉が
どういう人間か
知ってるんですかい
どういう
ことだ……

ほれ赤姫山へ
たてこもって
警官とけんか
した野郎……
なにい
〜〜〜〜っ

奴が
そうかっ
あの万吉
が……

この特少に
だって
あのうわさは
ながれている
はずだ……
今シャバじゃ
奴は すげえ
人気もんですぜ
……

おっ…おい
赤姫山の
万吉ってのは
奴が 奴が そうか
……
すげえ
こらまた
すげえのが
はいって
きたぜ……
だけど あいっ
そんなこと
ひと言もいわな
かったぜ……

わかましい!!
うひゃ
へっ

それじゃあ
あの大ボラは
本気か……
本気で
ぬかして いやがった
のか あの野郎

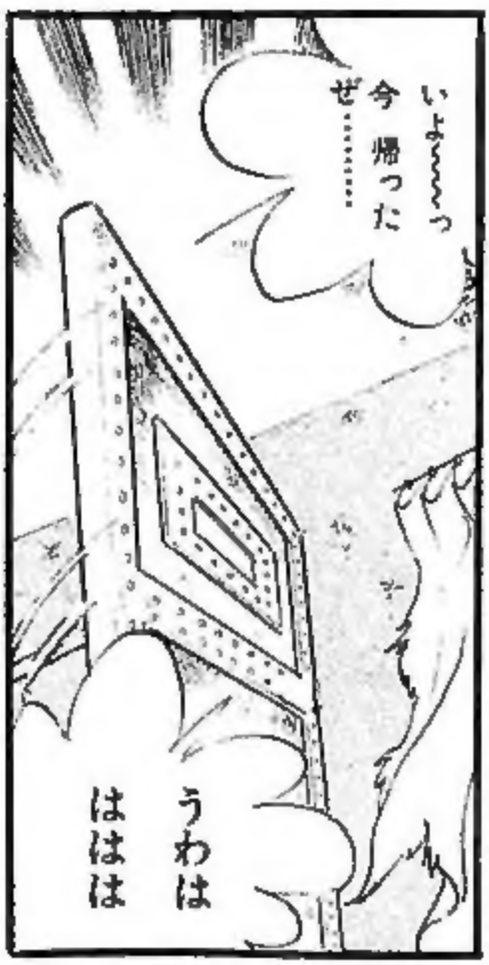
そういうこと
ですぜ……
部屋長 あんたは
奴に まるっきり
こけにされてる
んですよ
はっきりいって
あの万吉は
あんたより
格が上だ…

しかし……
それはシャバ
での話……
ここは あんた
の世界だ…
ですがね
ほっとけば
あんたの世界も
万吉に荒されますぜ

うわっ…
みっみろ
部屋長の
顔を……

よくも
ぬけぬけ
と……

部屋長が
あの顔を
見せた時
……
あっ…ああ～～
おそろしい
おそろしいことが
はじまるんぞ


いよ～～っ
今 帰った
ぜ……
うわは
ははは

見せて
もらうぜ万吉
てめえの
男っぷり…

……

なんじゃいおんどれらその目つきは
なんやちゅうねん
わしの気持ちを…
うらぎったな……
万吉(まんきち)～～～っ

なっ……なに～～～
とぼけるなっ!!

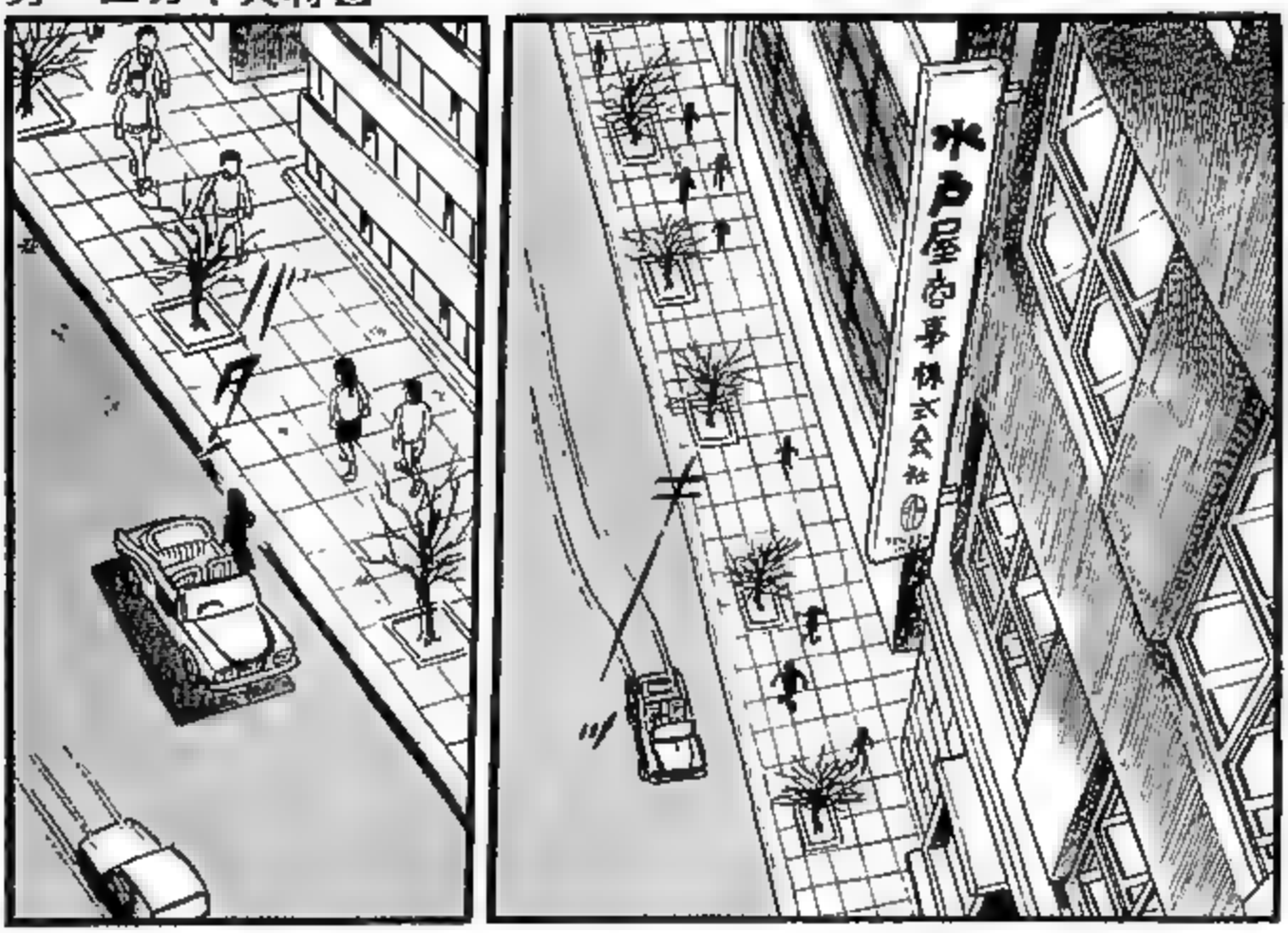
シャバで きさまが どんなことを やろうが……
いったん ここへ きたら すべておれが 中心だ……
おれの世界だっ……
この特少じゃあ 太陽は しずまねえ……
うっ…
リンチだ あの もっとも 恐ろしいリンチだ
この特少できえ 二度しか やらなかったという……
地獄のリンチだ……
ひとりが死に……
そして もうひとりは 気が変に なったというぜ
太陽は しずまねえ……か
とうとうでたな…
ふふ…
ﾊﾞｼｭ

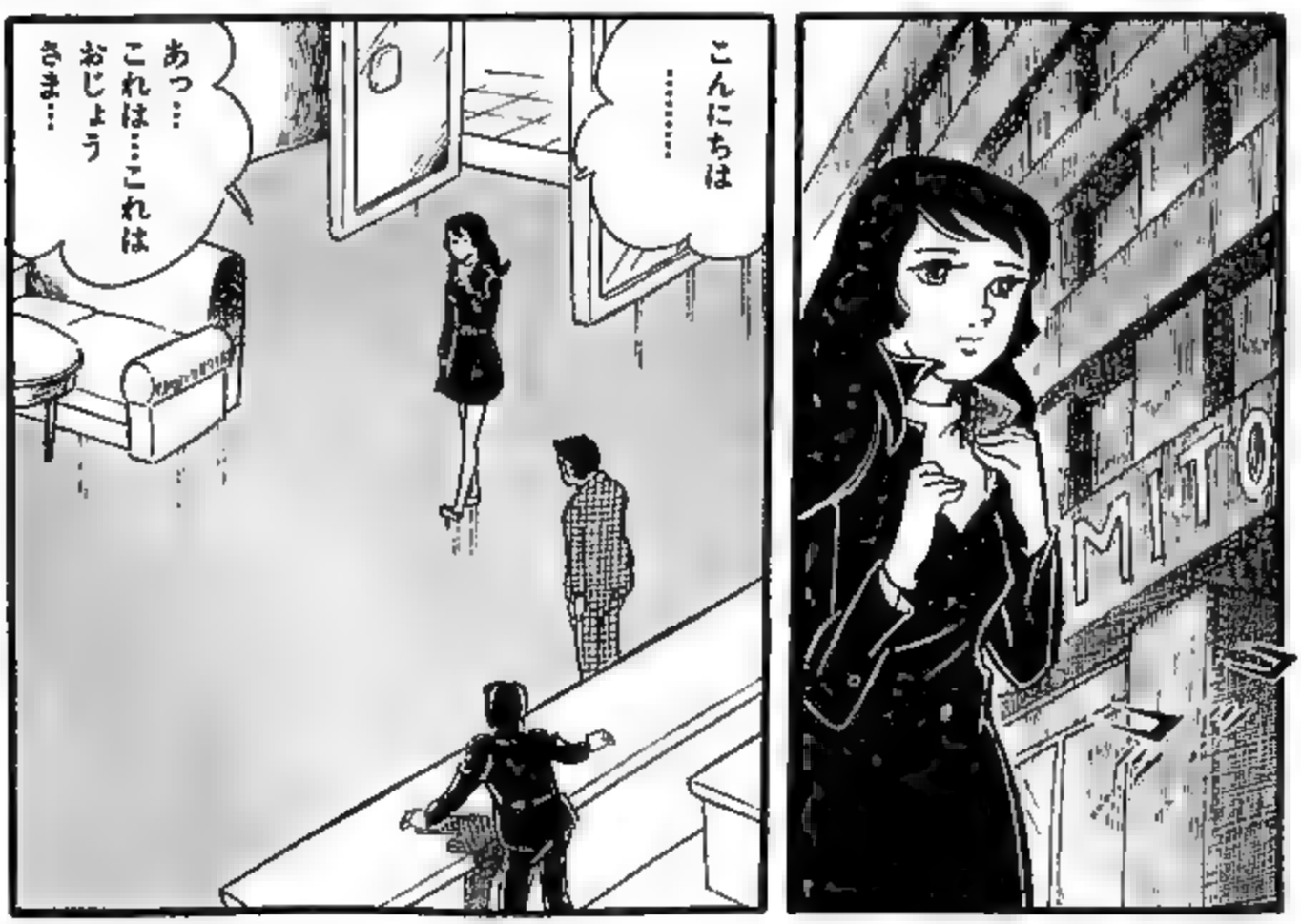
ゴッ
うわっ……
ひやあっ
なっ…なんだ…
きたねえつげ口しやがってえっ!!
みそこなったぜっおんどりやあーっ

おのれがだまっとればわしゃあいい気持ちでいられたんじゃ
このカスめ!!
はあ
はあ
はあ
かくごしとけよ万吉……

やめろーっ
やめんかこらーっやめるんだっ
めしまずい…
こんなめし食えねえめしまずい
そりゃめしまずい!!
わっしょいわっしょい
やれやれ……
もっとやるんだ……

やめんかこらーっ
うるせえーっ
こんなまずいめしが食えるかおれたちだって人間だぜ
そうだそうだ…
もっとましなもの食わせろってんだ
ふざけるんじゃねえや
だれだ
だれが煽動してやってるんだこれはー
はーいっぼくでーす
うう……
まっ…また…
あたぼうよ特少に殺し屋がはいったんだ
こんな所にぐずぐずしていられるかまぬけ〜っ


水戸屋商事株式会社


こんにちは……
あっ…これは…これはおじょうさま…
MITO

おばあちゃん
いる……？
そう…
……
はい…
きょうは
お待ちです
いやあ
お美しく
なられた
まったく
すばらしい
美人だよ
あゆみさんは
……
この前まで
ほんの子どもだった
のに　もう十七歳に
なったそうだよ…
あの会長の
血をひいて
よくあんな
美しい
おまご
さんが
できた
ものだ
ぶっ…
まったく
……
はは

お前が少年院からでてきおった時…
何をやりだしおるか おそろしいて かなわんのじゃ

万吉…わしゃあおそろしい……
お前という男が……

おぬしを完全にわしのものにするか……
それとも思いきってぶっつぶすか

もはや手段はえらばんぞ……

何をぶつぶついってるのおばあちゃん
ン……

なんじゃ あゆみか……
ウイッ……
また こづかいか……
さすが水戸商事の会長 話が早い!!
あほ……
おまえが わしの所へ くる時は きまっとるわい……
ほれっ
サンキューッ
あら〜〜っ
なによ まだ万吉とかいう 子供のことさわいでいるの……
戸川万吉 その後は
ああ…… ほれたんじゃわしゃあ

この年になって生まれてはじめて男にほれたわい！
ムラムラ
まあ……
ねえねえおばあちゃん……
ものはそうだんだけどさあ…
なんじゃあらたまって……
この万吉とかいうぼうやわたしのどれいにしたら　何を買ってくれる……
なっ…なにい～～～っ
おばあちゃんが最高にこわがってる万吉をき…
わたしがふぬけにしてあげるっていってるのよ……

うわあっ
ははは
まっ…
ばかも
やすみやすみ
に……
おもしろい
……
すきなもの
何んでも
買ってやるぞ
どう
……

まずい……
部屋長を怒らせたんは…まずいことになりくさったでえ

このデコ助をうまいことたぶらかして……
ここの悪党ども全部 わいの家のままにしてやろうと思ったが…

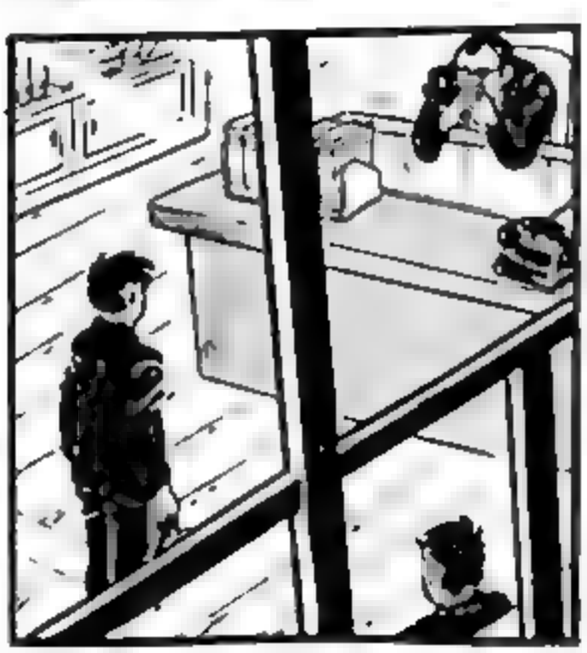
ケッ…こいつらめねむったふりしてくさるが
いったい何をやる気じゃ…

ふふ……
こいつはヘタをするとほんまに殺されるかも知れん……

おもろい…
わいがこいつらに 殺されたらそれだけや
しかし もし ほんまにこの世に必要な人間なら死にはせん……
ふっふふ…
一発ためしてみるか
こいっ
来て
みさらせ
……
おんどれらのリンチすべてまっ正面から……受けてやるぞ…
ゲボーン
ゴボーン
ズッ
ザザッ
きた……
きさらし
よった……

うわーっ
いてーっ
うわーっ
いてーっ
いてーっ
わーっ
教官
来てくれ
たいへんだーっ
久保さんが
急にはらいた
だよーっ!!
なっ……
なんだ
どうしたっ
久保が
どうしたっ
て……

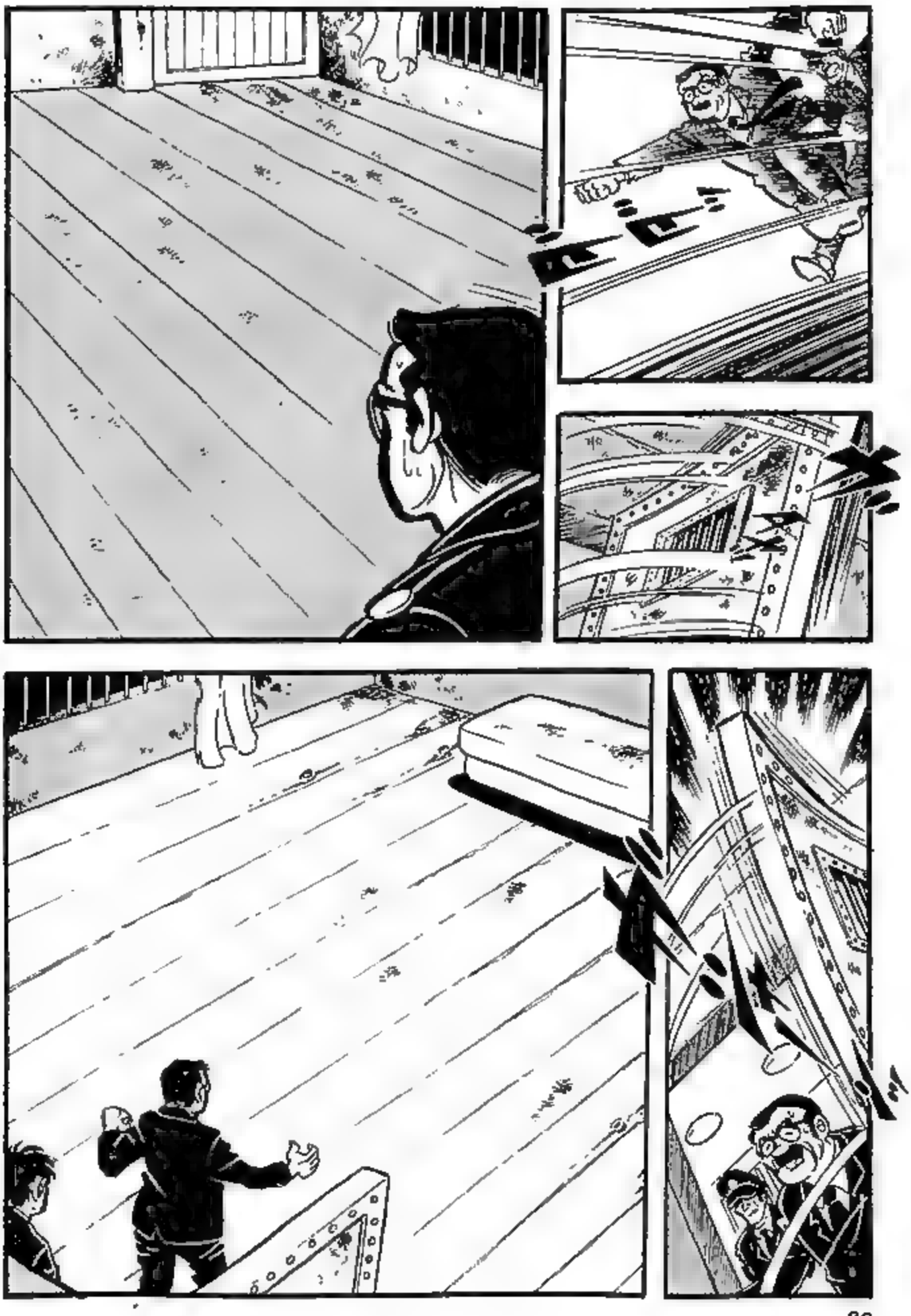
うっ
ゲッ
いいか 全部の房のカギを開けろ……
そして全員で脱走するんだ！
おおーっ
こいつはおもしれーっ
待っててくれ万吉親分
眼帯の銀次親分のもとへ行くのももうじきだぜっ



処刑の部屋の巻

うむ
～～っ
久保銀次か……
このままほっとけばかならずなにかしでかします……
しかも今や完全にこの少年院のボスになりました
他の連中をたぶらかしてなにをやりだすかわかりませんぞ…
なにごともおこらんうちに特少へうつすべきじゃないですかな
うむ
～～～

所長!!
どうしたあわてて……
いっ……いい……いません……
だれがおらんのだ……
おちつかんかねきみ……
どの部屋にも人っ子ひとりいません
もぬけのカラです
なにっ!!



こっ
これは…

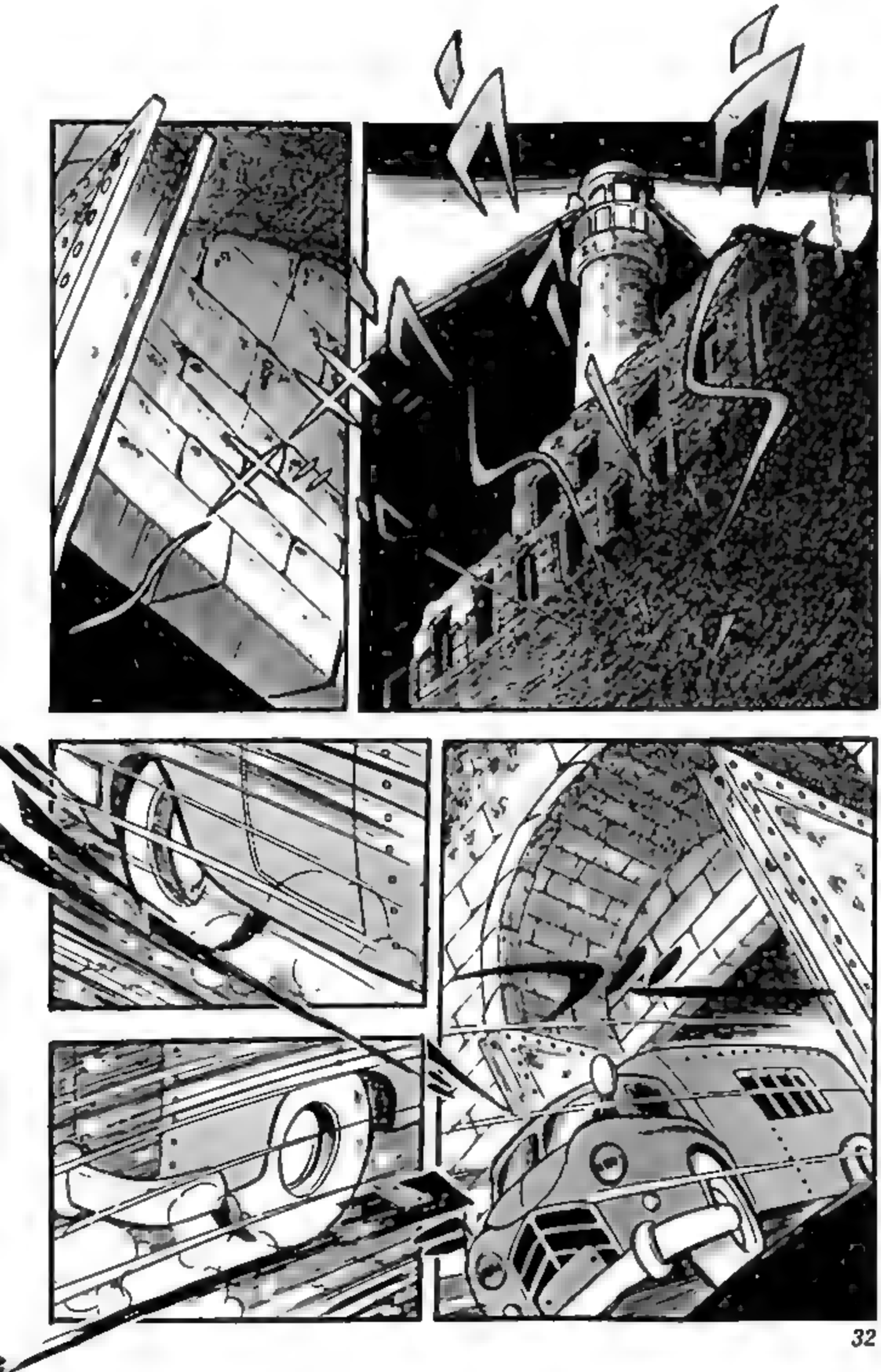
所長

第一から
第七まで
二百人
のこらず
おりません
……

うう
～～～っ
眼帯だ
あの眼帯野郎の
しわざだ……

所長!!
いうな
!!

すぐ県警へ
連絡しろ
非常線を
はるんだ
!!



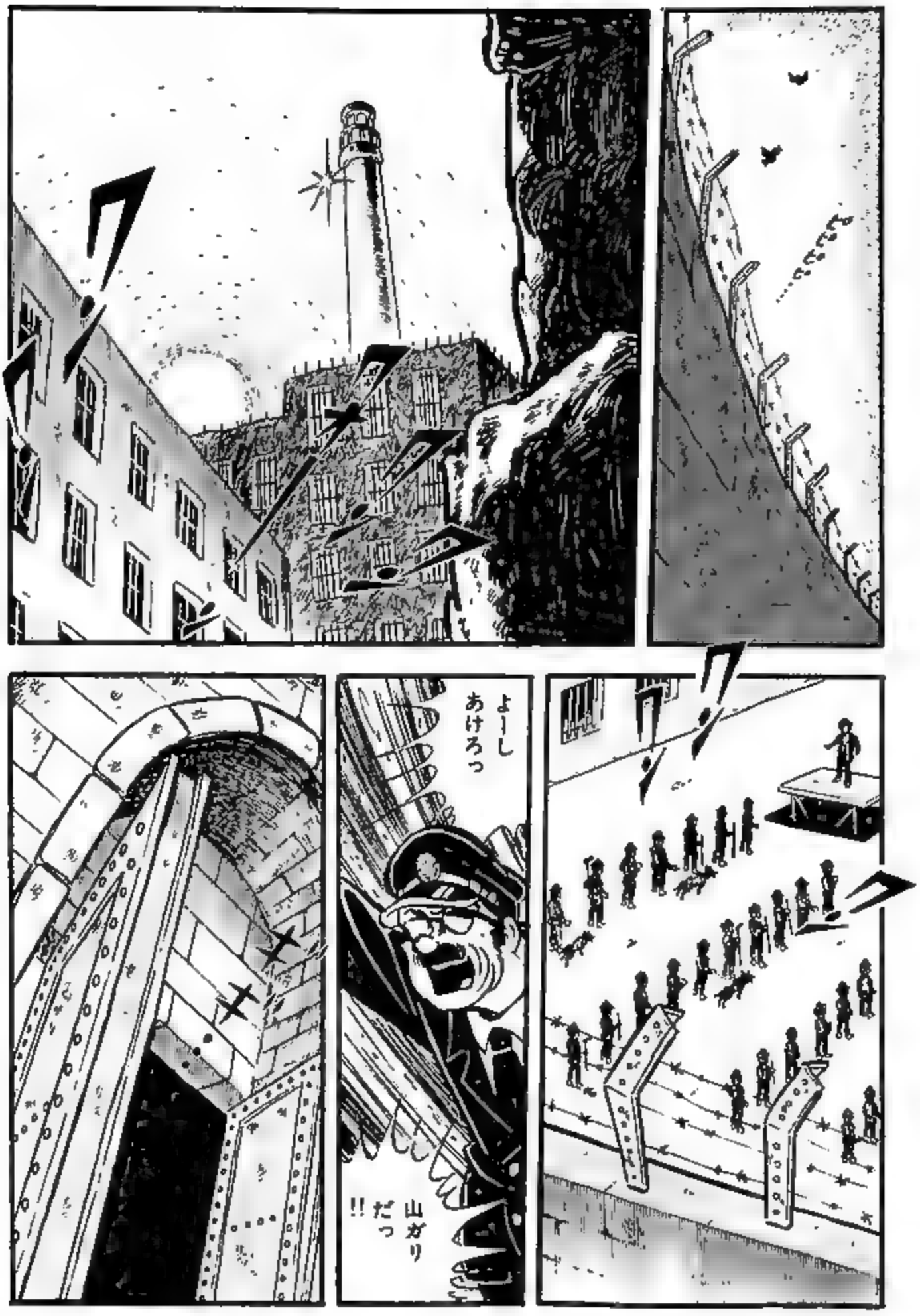
ケッ…
まぬけめ～～～っ
二百人もの人間がいっぺんにきえるか…
へっへへ…まんまとひっかかりやがった

よしっ行くぞ～～～っ
おお～～～っ
正面からどうどうとでようぜっ

うわ〜〜っ
やっ
ちまえっ
!! うが
ぎゃっ !!
あっ…
奴らだ 所内にかくれて いたんだ…

やめんかあ〜〜っ
お前らっはやまったことはするな〜〜っ!!
ひだだにげられはせんぞ
やめろ〜〜っ
うわっ!!
うきゃ〜〜〜っ

まだか……
はっ…
まだひとりもアミにかからんのかっ
はっ……
はあ……
どんな細い道路もすべて 非常線をはっているのですが……その……
山だ……
山へもぐりこんでおるにちがいない!
明朝 すぐさま山がりをはじめるぞっ……
くそ~~っひとりのこらずとっつかまえてやるっ!!


よーし
あけろっ
山ガリだっ!!

あっ…

なっ…
なんだ…
これは
どっ……
どういう
わけだっ…

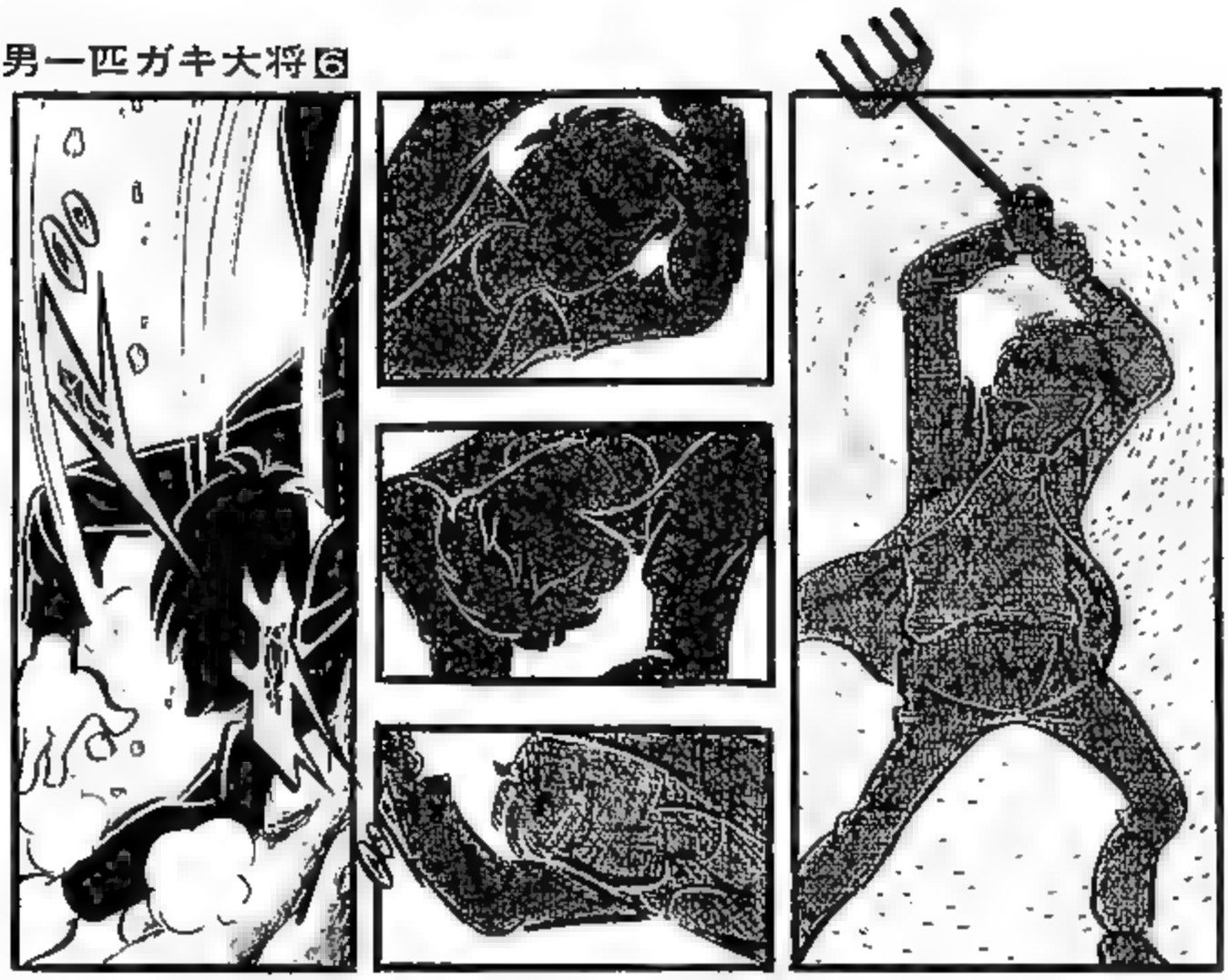
どういうわけって…
自首しに来たんだよ
なにぃ〜〜っ

へっへっへ…
こんどのことは
全部おれひとり
が わりいっ……

他の連中は
みんな関係ねえっ
おれっちに
おどかされて
しぶしぶ
やったことよ
……
だなぜ!!

なんで
半日もせん
うちに自首
などして
きおった
……
へっへっへ
……
美人は 美人の
まま死んだほう
が かっこいいと
思わねえかい……

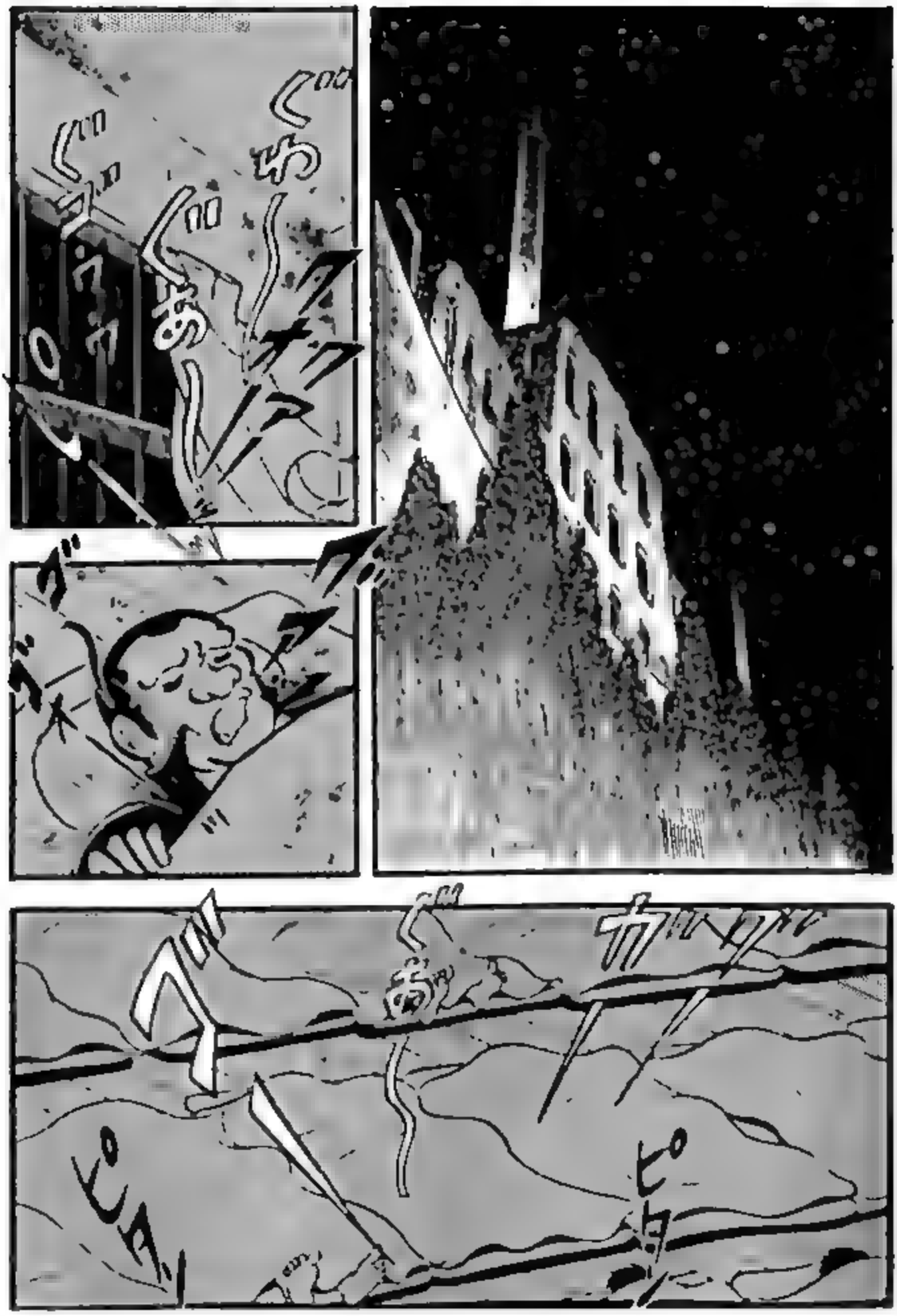
なにい
〜〜っ
道路は
すべて非常線
……
朝になりゃあ
山がりが
はじまる…
逃げきれる
わけねえ
じゃねえ
か……
つかまるの
と……な
つかまって
やるのとじゃ
えれえ…
ちがいだろ
……
もっとも
こんなことは
本気でやった
んじゃ
ねえがよ…
ほんの
あそび
だあ〜〜な
きっ…
きさま
〜〜っ
おれを こんな
しょんべん
くせえところに
おいときやあ
……
もっと
えらいさわぎを
ひきおこしてやる
という
警告だよ
警告……



へっ…へへ……
とうとうぶったおれやがった……
しかしタフな野郎だぜ…
きょうで八日目だってのによ……
だが…今晩あたりが山だろうな……
ああ……

このリンチを くって
ひとりは十日目で気がへんに
もうひとりは十二日目で死んだというぜ…ふふ…
このリンチの間五人が組みかわりばんこに 毎日見張るんだ……
ただ 見張るだけよ……
昼でも夜でも一分一秒も眠らせねえようにな……
おきろ 万吉……
おきるんだよっ…

うっ
さわるな……
おれの体に……
さわるんじゃねえっ……



急げ！銀次の巻

おっ…おみろよこの目…
だいぶいかれてきてるぜ…
だけどようこの野郎ひと言も弱音をはかねえぜ

まったく気持ちのわりいガキだ
ふつうだったらもう泣いてあやまるところなのによ

ふむ……
これまでがせいいっぱいのふんばりだ…

いまに泣いて頼むぜ
眠らせてくれってな

それでなけりゃ人間じゃねえこの野郎…
ばけもんだ…

ひっひひ
ひひ…
うひひひ
ひひ……

あうあうあ!!
あ〜っ!!

ガバッ
ザ〜

なっ……
なんじゃ!

うわっ……
おい
よ〜〜〜っ

うひゃひゃひゃ……
ケエッへへへへ……
えっへへへへ……

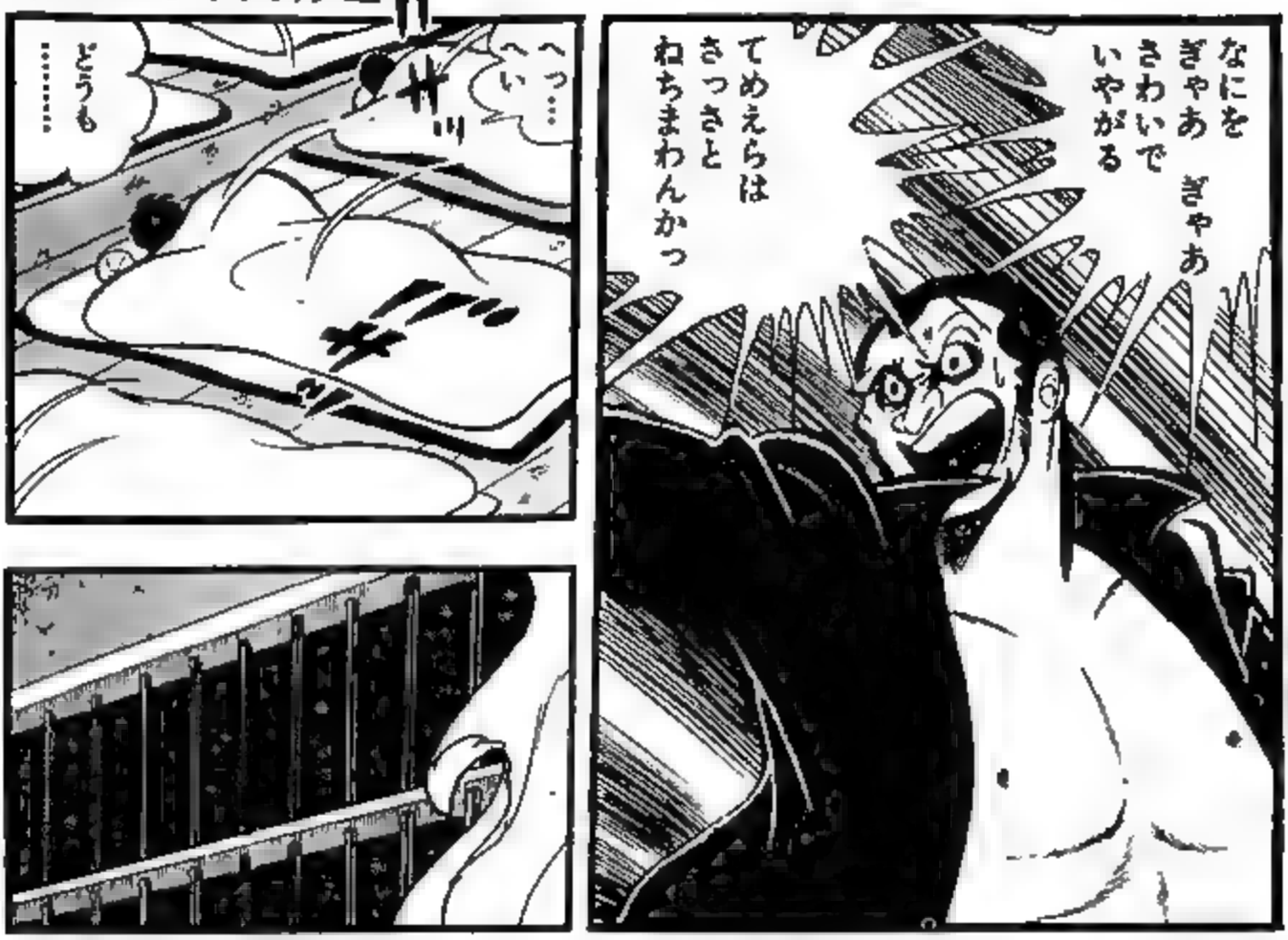
おかしくなったか……
ええ……らしいですね……

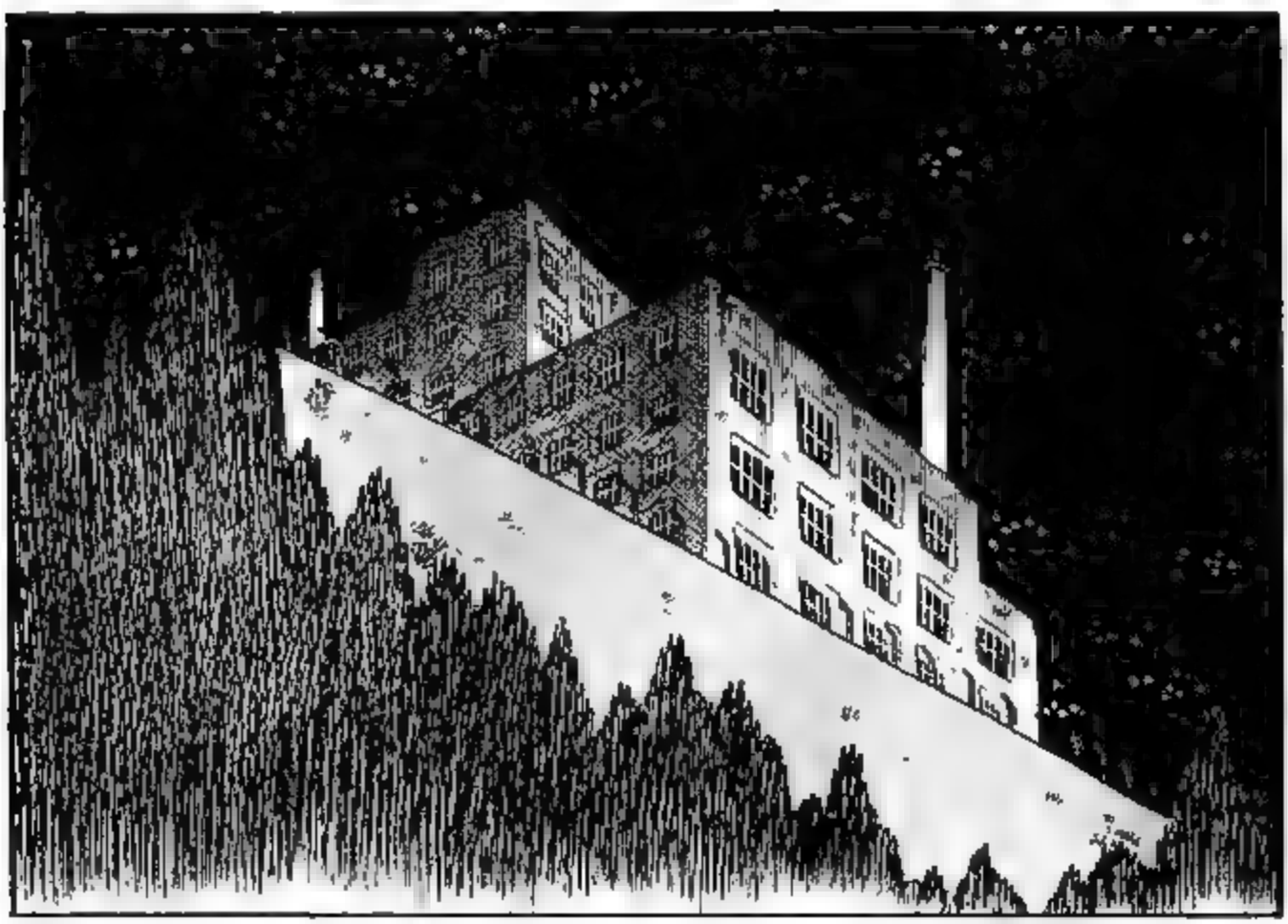
しまった……
ふっふ…ふ
万吉を 救るように頼まれたが こいつは なにもしなくて すみそうだ
へっへへ……

なめるな
アホンダラ
この万吉
天が必要としている
あいだは　どんな
ことがあっても
死なん！
死には
せんの
じゃい…
うわあっ
ははは
さすがの
わいも九日目や
ちいっとねむく
なったんでな
ねむけざましに
ちょいと
ひと声
あげたまで
じゃわい
うわあっ
ははは
ギ…

うっ……
う……
う……
ああ……
ゲホ

つづけろ…
へっ…
一分一秒たりとも 眠らせるんじゃねえ
それがわしの命令だ…
へっ…
へっ…
おっ…おい
あっ
ああ
ざわ
ざわ
ざわざわ


なにを
ぎゃあ ぎゃあ
さわいで
いやがる
てめえらは
さっさと
ねちまわんかっ
へっ…
へい
どうも
……



ン……
あっ
部屋長……
どけ……

万吉……
な…
なんじゃい……
これからあと死ぬより苦しくなるぜ…
心臓は うなり 目は かすみ……
きさまの体はいまや眠ることを要求して大さわぎじゃ
かわいそうだとは思わんか……
おまえの根性がんばっても体は 泣いとる……
いっちまえよ…
ひとこと…眠らせてくれと…

そうすれば
そのまま
夢の世界へ
直行だぜ……
そして
眠りからさめた時
おれの右腕として…
心の底から　大切に
してやる
わしが
この特少へ
はじめて
きた時
このリンチを
みたことが
ある
その時
そいつは　三日目で
泣いて頼んだ
助けてくれと
教官の所へ
なんども　逃げ
だそうとした
ふふ…
けっきょくは
殺されち
まったがな

わしは
おまえを
殺す気など
ない……
それより
右腕にして
かわいがって
やろうというのだ

いっち
まえよ……
眠らせてくれ
かんべんして
ほしい…と…

やはり
それが目的
か……

なにい
……

考えても
みろっ…
おまえが
わいの子分に
なるなら
いざしらず
……
なんで
天の男が カスの
子分にならねば
ならんのじゃい

死にたい
のか……

殺せたら
……
殺して
みさらせ
……

ゆうずうのきかん……
ガキめ……
ガキじゃねえ……
これは男のうちじゃい聴病者め！
殺してやる!!
殺してやる!!

とことん
わしを
なめやが
ってえっ
この野郎
——っ!!
うわっ…
なっ…
なんだ
うぐぐ
ぐわあ〜
へっ
部屋長
やめろっ
やめたほうが
いいですよ

いま
殺っちまったら
このリンチの
意味はねえ
どうせ
ほっといても
二　三日の命だ
そうでしょう
部屋長!!

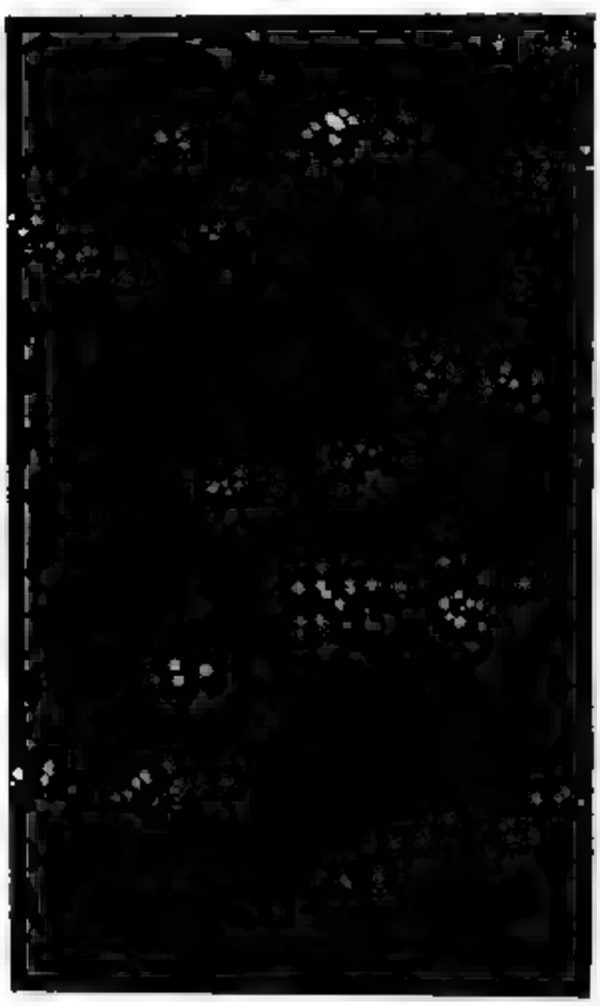
うう…

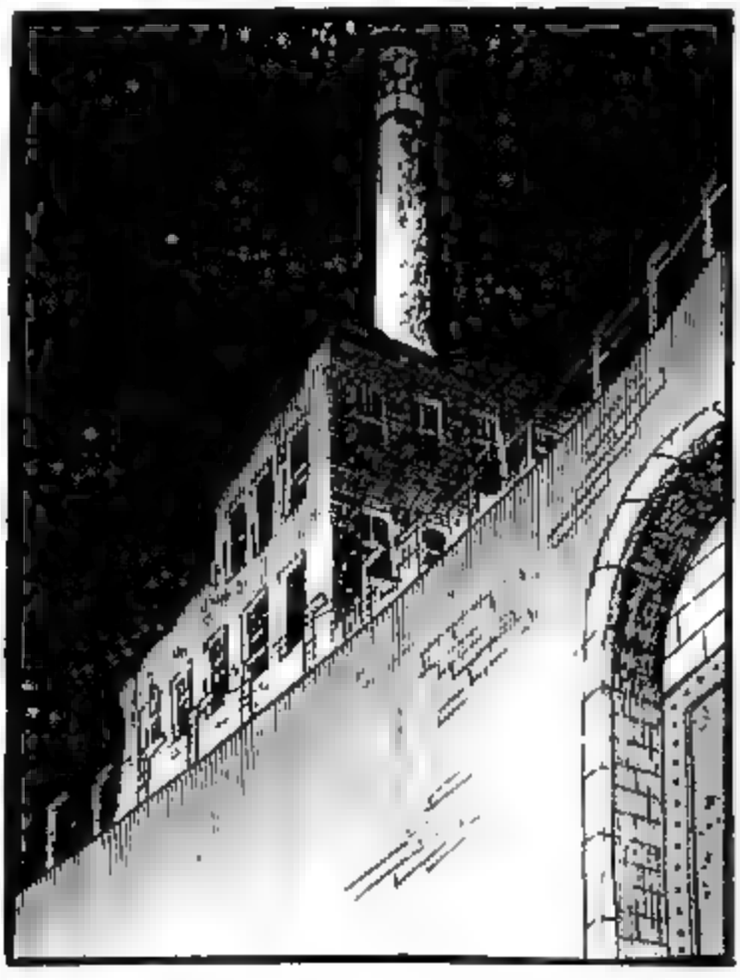
手をぬくんじゃ
ねえぞ
てめえら!

なんてえ
男だ
万吉め!
あっ…
ああ…

ねえねえ先輩
もし万吉が死んだら…
どうやって……
ごまかすかってんだろう
死体なんざあどうにでもしまつできる
あとはな脱走してにげたようにきいくするんだよ……

なあるほどねえ……
それじゃあわからねえや
なぜだ…
えっ……いやべつに





おれの心はきまった……
ほんものだぜありゃあ…
男一匹戸川万吉あんたを……
死なせるわけにゃいかねえ…
ケッしぶとい野郎だぜまったく
ふふ……

だっ…だれ…
うわっ
なっ…なんだ
とっとうしたんだ…
ふっふ…

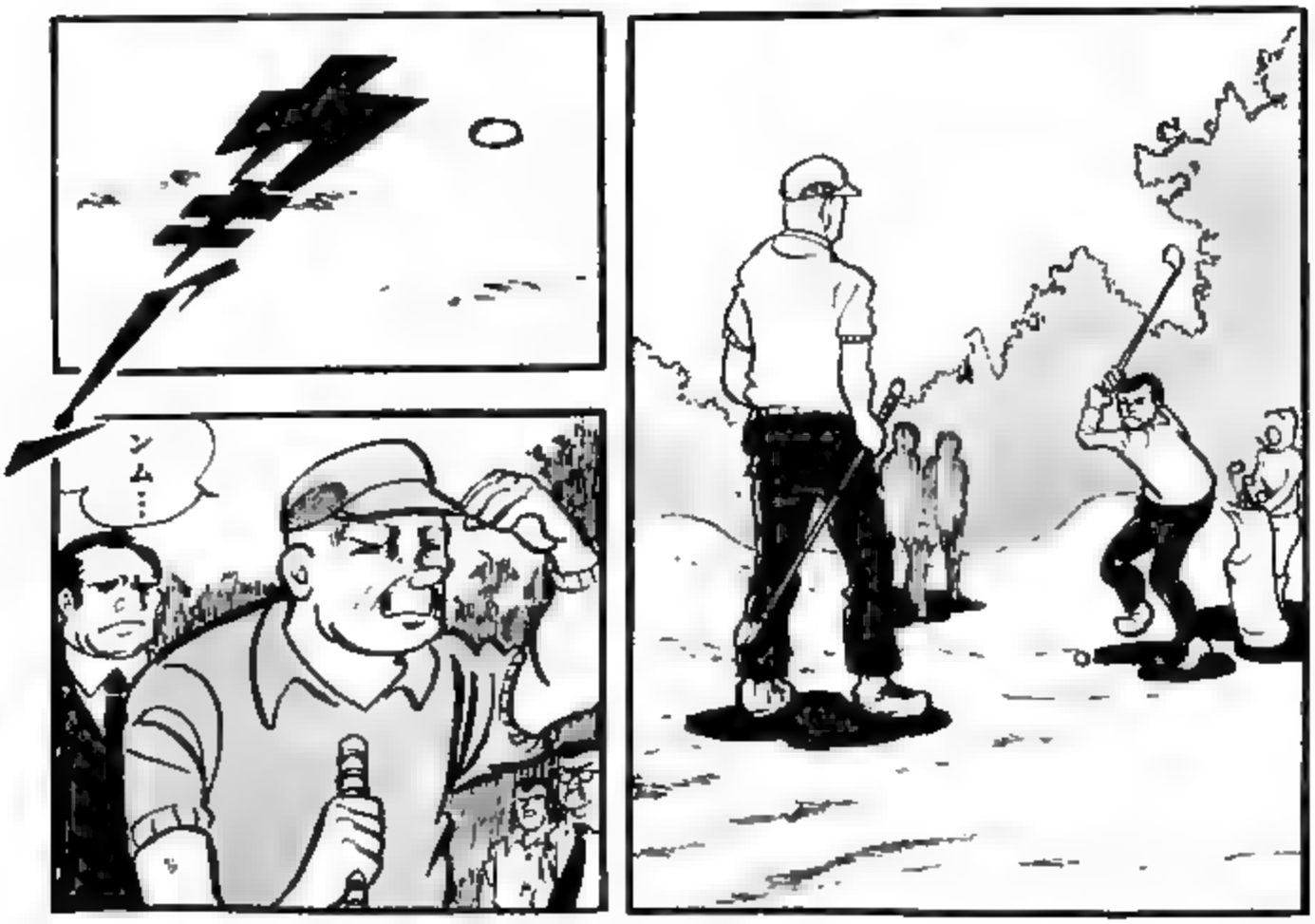
ほんのちょっとだと　思うが眠りなよ……
だっ…だれだ目が　かすんでよく見えねえ……
奴らが目をさますまで二時間ほどは眠れるだろうぜ……

兄き～～っ
銀次兄いっ
たっしゃでな――っ
がんばれよ――っ
おお――っ
てめえらも元気でな――っ
わかってるぜっ
おれたちも万吉一家だ親分によろしくな
お―っ
わっはは……
ぐずぐずするなさっさと来るんだ

うるせえっ
おれたちは
いま最高の
気分だ
じゃまするねえ
ばっはっはっはっ
うわーっ
ちくしょう
ちくしょう
めえっ
こんどこそ
ほんとだ
親分の
ところだ
ちくしょう
〜〜っ

ケッ
まずい…
いまのが
だれ
だったか
わから
なかったが
……
味方がでて
きやがった
他人を
あてにする
より…
自分で
しまつ
するか…

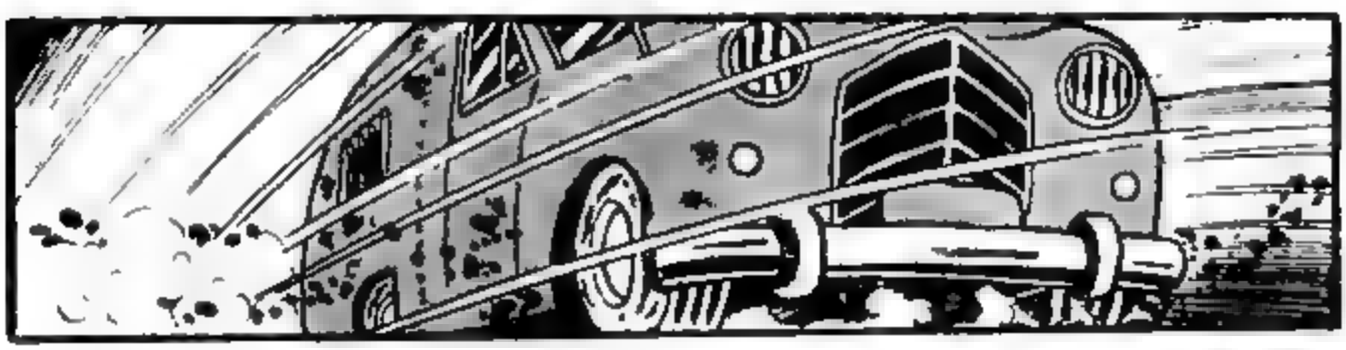
万吉脱走の巻


ンム…

はっはっは
いやあ相かわらずおみごとなお手なみですな
わたしなどとてもとても…
仲台浮浪者の組織……
ぶっつぶすてはずはすすんどるか？
はっぱんじぬかりなく……

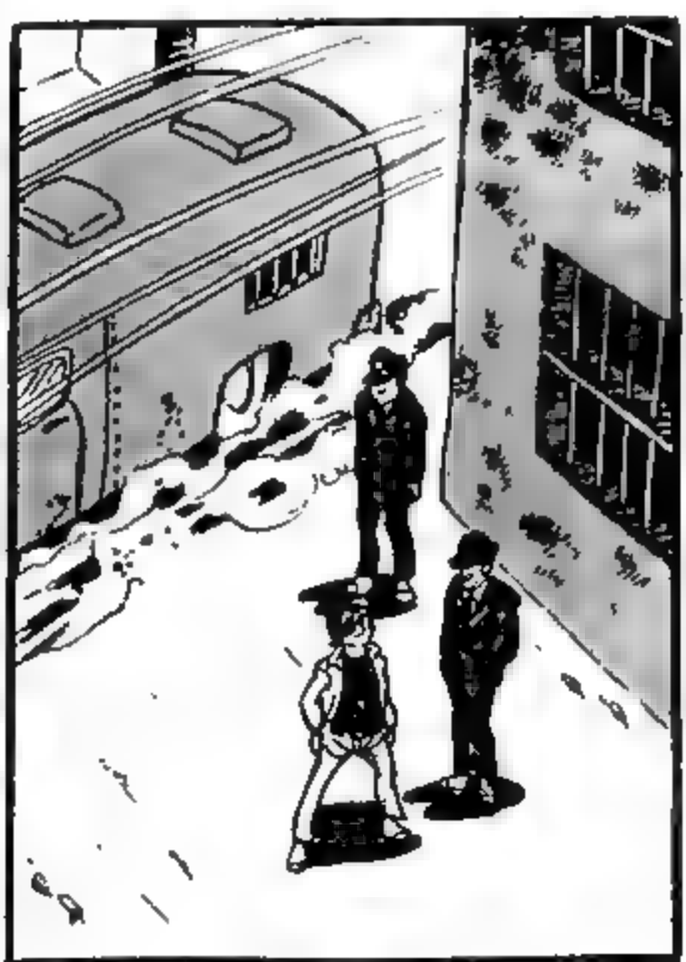
なっ……なんですか？その浮浪者の組織をつぶすとは……
万吉だ……
あの小僧の両手をもぎとっておこうと思ってな

ふっふ…
そのことでしたら先生がかける必要はありません…すでに手はうってあります
なにい〜〜〜



へっへっへ
来たぜ
とうとう
来たぜ…

万吉
親分……



さすが特少だ……
あんな ケチな少年院なんぞおよびもつかねえぜ
うわ——っ
ばかやろう 気をつけやがれ！
こりゃ ボサッとしとらんでさっさと歩かんか!!
やっ

ケーッ
おりゃあ
犬じゃねえ
んだ……
もっと
ていねいに
あっ
あれは
……
ン……

あ……
やろう…
網村
ン……
ようー…ひさしぶりだなあ眼帯！
てっ……てめえー…っ
なぜ……だ……
なぜ　こんなところへ　のこのこ　でてきやがった……
ムっふ……こういうところはな……
でるのはむずかしいが入る時はぞうさねえもんよ

きさま　また
なんか　たくら
んでいやがる
な……
ふっ
ふふ……
ケッ
へどみてえな
野郎だぜ
てめえと
いう奴は!!
なんど　いっ
たらわかる
んだ
さっさと
歩かんか
……
ふっ
ふふ…
ところで
なにかあった
んですか
?
ばかに
ざわついて
るが……
ふっふ……
おまえら入った
ばかりだから
知らんかも
しれんがな
脱走しよう
などとは
絶対考えん
ことだぞ……

だっ……だれかぬけたのか……？
ふふ……
たとえここをぬけきったとしても……
山にまよいこんでのたれ死にがいいところだふふふ……
だれが！
いったいだれがぬけたんじゃい
なっ…なにをするか
若松……という男だ……
それに関脇の戸川万吉……
なに――っ

六人も半殺しとは……
ずいぶんとはでにやったな……あん！
綱村鉄次…
返事をせんかっ!!
あっ……
ああ……

ケッ
ぬけちまったんじゃ おれが来た意味がねえ
くそ～～っ
ちょうどいいふたりいなくなった部屋へつれて行け……
はっ……
ぬけた…
そんなはずはねえ……
カーン
コツ
ツ
ツ
カツ
ツ
ツ
そんなばかなことをするわけがねえ……
だとしたら……
ガン
ガン

新入りだ……
よろしく頼んだぜ

きたな 万吉一家

部屋長
新入り
ですぜ…
明日だ
……

へっ…

きょうは
のり気が
せん…
歓迎会は
明日にしろ
……

そう
ねげえてえな
歓迎会なんぞ
けっこうだ
そんなことより
聞きてえことが
ある

なっ…
なんだ
てめえ…

がたつくん
じゃねえっ

ふっふ…
あいかわらず
鼻っぱしらが強い
男だぜ　この野郎
万吉親分は
ほんとうに
脱走したのか
うっ
きさま
万吉の
なんだ……
一の子分
眼帯の銀次
……

うっ…
や…
奴が…
どう
なんだ
はっきり
返事を
しろ！
もう
聞いたろう
脱走
しちまったよ
……
ちがうぜ
そいつは…
うっ…
そこの
ゆか下にな
脱走なんか
してねえ！
ちゃんと
いるぜ…

なっ……
なにいっ
ほれーっ
ここだよ
てっ…
てめえ
あう
!!

ぐっ!!
おーっ!
おーっ!
おーっ!!

どいつじゃ
どいつが
やったん
じゃあ——っ
万吉親分を
殺しやがったのは
どいつじゃいっ!!

ケッ なにを
ほえて
やがる

万吉どうよう
たたんじ
まえっ!

へっ……
へい……
それ
——っ

動くな
!!

張本人はそこのでけえのだ!!
ざこどもはこのヘルスがひきうけた……
うっ
ひっ
万吉親分のかたき!!
思うぞんぶんとるがいいぜっ
ぶぶっ!!

よみがえる万吉の巻

うわあーっ
部屋長っ
あっ…
うごくんじゃねえーっ
てめえらのこわがってる部屋長の実力がどのていどのものか じっくりみたらどうでえー

うわああ――っ
おお――っ
うっ
うわっ
殺してやる……
……

ぶっ殺したる!!
うっ
おれが殺す…
うう…
うおお……
勝負にならねえ……
感情が火となっているやつとうしろめたさを感じているやつとじゃな

おれがぶっ殺してやる！
きさまらみんな！
うわ——っ
よってたかって親分を…
あっあう…
おおっ！
てめえらあーっ
うわ——っ
ぎゃあ——

ぶっ殺してくれるわ――っ
まっまってくれ…
たっ…助けてくれーっ
ああ――っ
うわああ――っ

おれは……
おれは
ちくしょー
おおーっ
はあはあ

うう〜〜

ガバッ

ああ〜〜

おお
おーっ
ああ
う〜っ

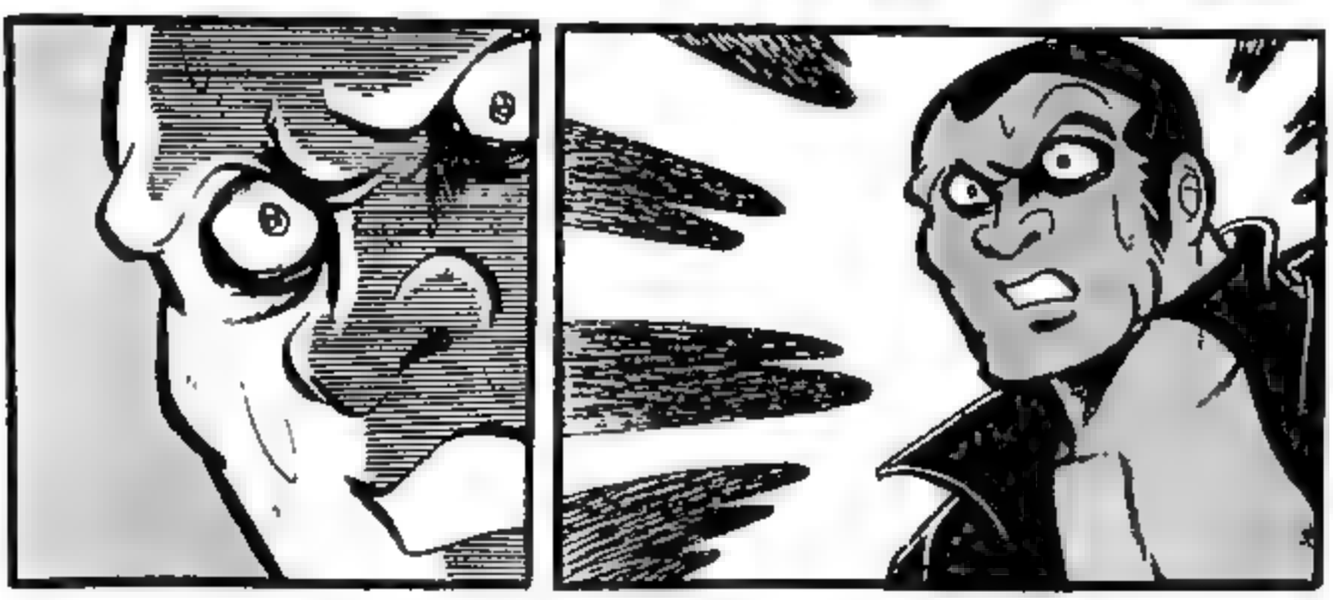
わしゃあ……

わしゃあもし ゆるしてくれたら…
万吉親分のそばにいられるようになりたかった

こんどこそ親分の役にたつ人間になりたかった……
その一心でそれだけでこんなところまで来たんだ
万吉親分の役にたてる人間になるために…
おれは……
おれは…
うわあ
あーっ
あう
お～～～
ン……
うわあ
あーっ

うっ

おっ
おお…
ああ…



おっ……
おやぶん
……

ガロ…
ひさしぶりやなあ…
銀次(ぎんじ)
綱村(つなむら)…
おっ…
お……
アホ…
おばけとちゃうで…
ほれ
足も
ちゃんと
ついとる…

はにゃ
うわあ
あー
親分
万吉親分
――っ
うっ…
くっ……
な…
なんだ
……
どういう
わけだ…
こいつは…
まっ…
万吉…

助かったのも
あんさんの
おかげや…
すまなんだなあ
とっ…
とんでも
ねえ…
おれみたいな
ハンパ野郎
でも…
あんなすげえ
根性を　みたら…
動かざるをえねえ
自分でも
いった
ように…
万吉さん…
あんたは　この世に
必要な人間だよ
ケエッヘヘヘ
てれくさい
ことを
いうな
われ…
へっ…わけの
わからんような
詩してやがる…
ふっふふ
……
待ってろ　いま
タネあかしを
してやるぜ…

ふっふふ
うぐ……
よっと……
ほれっ
この野郎が
万吉親分の
命を ねらってた
殺し屋だ
うぐぐ……
なに
い～～～っ
うぐぐぐ……

死ね
万吉…
あの時…
あっ…
あうっ…
て…てめえは若松
なんのまねだこれは…

うぐぐ……
いえっ
なんで
きさまが
万吉の命を
ねらう
うぐ…いう
いう……
なんでも
万吉さんを
殺したら
百万円もら
えることに
なってた
らしい…
そのために
ここに 来た
んだとよ…
こっ…
この野郎
よせ
銀次…
だが
そのまま
ほっといたら
万吉さんは
殺される
ちょうど
夜も あけて
きた時だ…
おれは 一時
しのぎでもいい
助ける策を
考えた
……

万吉さん……
ほんの一分
ぐらいのあいだ
息を
とめて
くれ……
うっ……
ああ
うわあ
――っ
死んでる
万吉が
死んでるぜ!!
なにい
――っ
ほっ……
ほんとだ……
息を
してねえ
……

どっ……
どうするん
ですか
部屋長…
まっ……
万吉の死体は…

ばかやろう
そんなことは
あとまわしだ
!!
ぐずぐず
してたら
起床時間だぞ…

そのまえに
脱走して
にげたように
さいくするん
だ…

万吉は 一時
床下にでも
ほうりこんで
おけー

へっ…
へい…
はやくしろっ
!!

そのあとは
一日の作業で
いまに
いたったって
わけよ…
その間　わいは
ぐっすり
眠らして
もろうたでえ
……
うわあっ
ははは
どうや……
わいの命が
ほんまもんで
あることが
わかったろ
……
へっへっ
へっへ……
あっ…
あんた
ほんとうに
死ぬ気
だったの
か……
いちか
ばちか…
死んで
しもうたら
それだけの
ことや…
だが…
このとおり
生きている…

この部屋……
今後
わいが
しきる……

文句
あれへん
な……
へい

なんだ
その
つらあ…
てっ……
てめえ…
ン……

まだ なにか
文句が
あるのか
わりゃあ
……!!
わっ……
わしは……
かまわん……
だっ……
だが 総部屋長が
なんと
いわれるか……
総部屋長……
なんだ
そりゃあ!
この特少には
十の部屋が
ある……
その中に
十人の部屋長が
いるんだ……
わしなんざ……
その中の
ひとりの部屋長
に すぎん……
ひとりの
部屋長にな
……
鬼頭政次
……
そのお方が
この特少の大ボス
だ……
大ボス
鬼頭政次
……

ふふ…
ふふふ……
やはり　まだ
いくさったか
そんな男が…
けっ
しゃらくさい
こんなところ
ひとつ　支配できん
男やったら…これから
わいは　なにも
できん
やったる！
そのガキも　わいの
思いどおりに
やったるわい
それで……
どんな男じゃ
その鬼頭とか
いうガキは…
万吉さん…
あんたに
そっくりな
おかただ
なっ
なにい
～～っ

総部屋長登場の巻

そういえば万吉さん学校はどうしたの……
出席日数がたりなくてけっきょく卒業できなかったわ…

へ～っそうすっとまだ中三かあ…
わたしたちのほうが一年先輩じゃん
えへへへ…どうしてるかな 今頃あのふたり

あのメッカチわたしのことまんざらでもないんだなあきっとうへへ…
えへへ…
親分はよじだって手紙の中に元気でやれよだってさ
手紙もらっちゃった

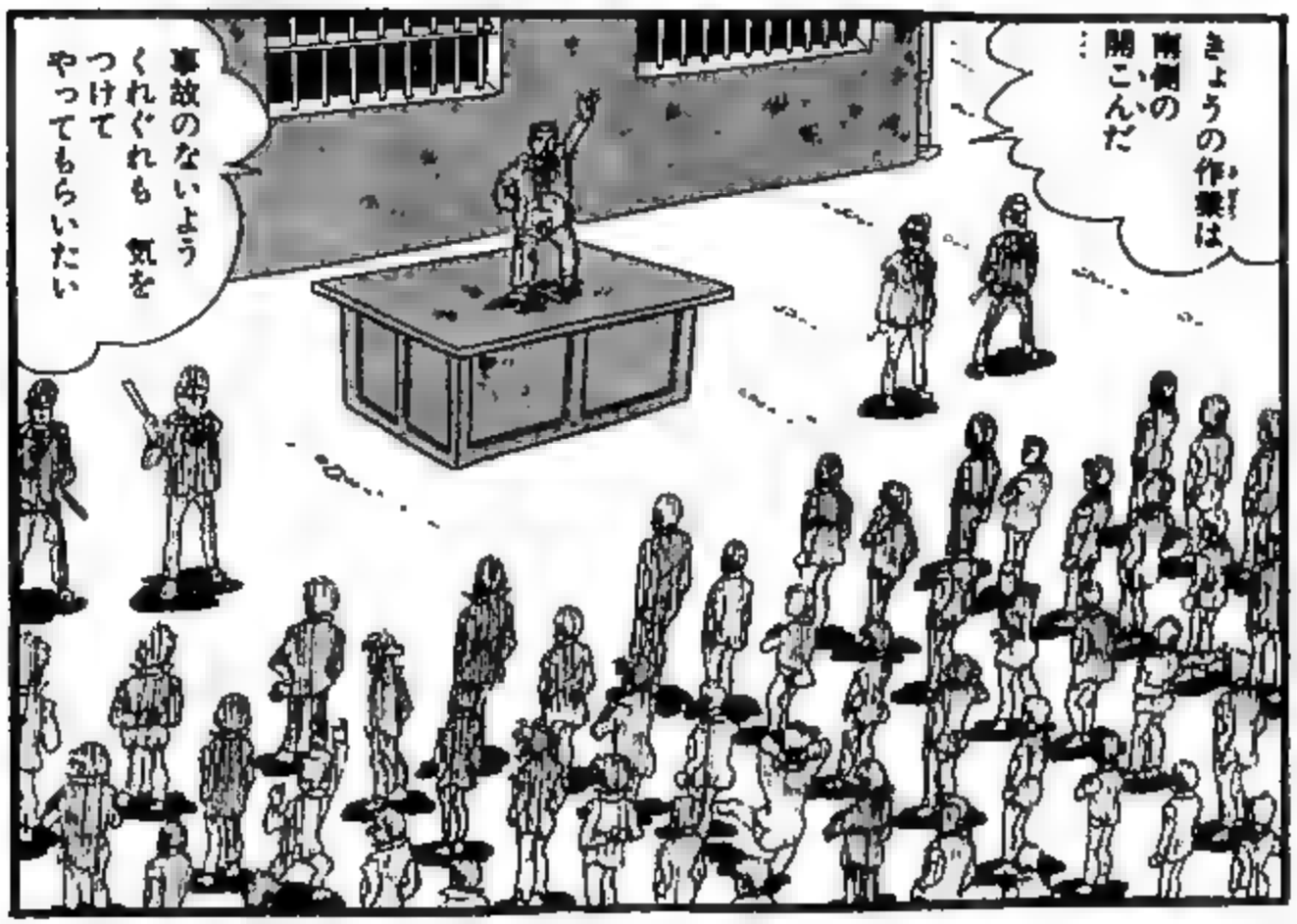
すぐ帰るんや…
ええ〜っせっかくあえたのに…
いいから帰るんじゃいっ
万吉さん…もうきらいになったのね
友子のことが…
どっ…どうかしたの友子ちゃん…
えっ…
ううん…べつに…
そういえば最近友子ちゃんちょっとへんよ……
なんだか元気ないみたい…
そう…そんなことないわよ…

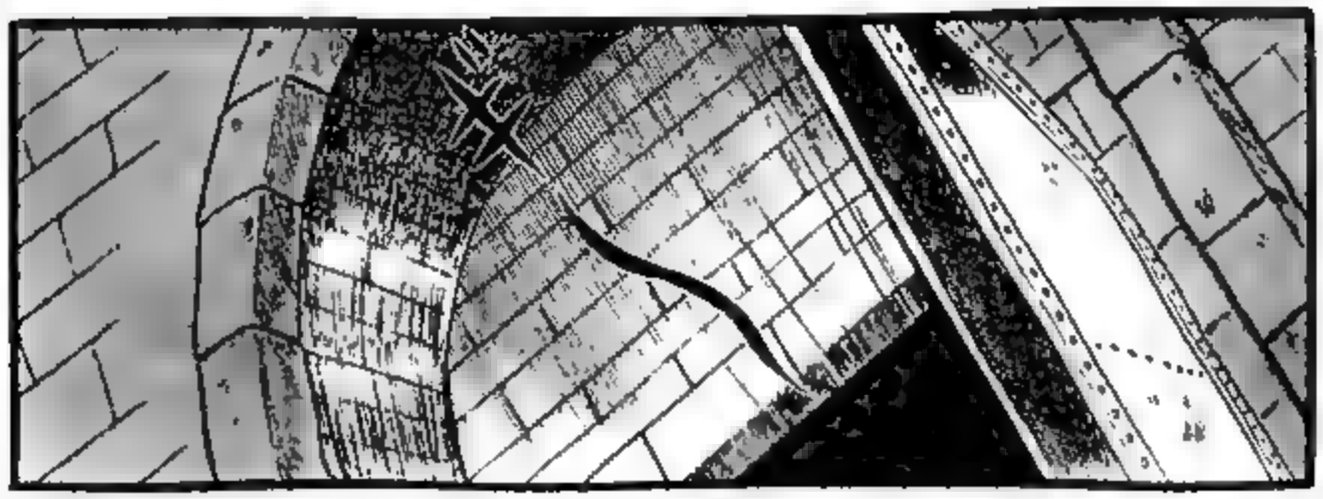
岡野友子……
えっ……
あなたね…友子って子……
はっ…はい
あっ…あのどちらさまですか？
どうでもいいじゃないそんなこと……
ふふ…万吉はわたしがもらうわよ
なっ…なによあんた
いきなりへんなことをいいだしてバアーじゃないの

ほんとは
こんなこと
ことわる
必要ないん
だけどさ
いきなり
じゃ　かわい
そうでしょ
めんどう
だけど
前もって
知らせに来て
あげたのよ
そっ…
そんな
こと…
だれなんですか
あなたは…
万吉さんのしりあい
きゃ
ーっ
ふふ
…
なっ　なにを
なにを
するのよ
エッチ
子どもね
まだ…

バタ!
せいぜい
いまのうちに
心の準備を
しておくこと
ね…
ほほ
なにいって
んのよ
あばずれっ
あっはは
はは
友子ちゃんは
もう万吉さんの
婚約者
なんだから
あんたなんかの
でるまくじゃ
ないのよ!
わっ

友子ちゃん だめよ あんな 奴のこと 気にしちゃ…
万吉さんは 友子ちゃんが好きに きまってるんだから
わっ… わたし…
ひょっほ〜っ
かわい子ちゃん お茶でも 飲みに 行かない
うるせえ〜っ ぶっとばされ てえか てめえら!!
うわっ……
ほいよ〜っ
なっ… なんだ あの女 ……
あいたい…
万吉さんに あいたい…


きょうの作業は
南側の
開こんだ
……
事故のないよう
くれぐれも 気を
つけて
やってもらいたい



まっ…
万吉さん
……
ン……

ガ"タ"ー
ガタガタッ"

きょう…作業場へついたら…
おそらく部屋長総会があるはずだ……
部屋長総会…？
あっ…ああ部屋長だけでおこなう会議だ……
たっ…たぶんわしとあんたのことでな…
ふふ……
そこにくるんやろ…その鬼頭とかいうガキは…
あ…ああ…
おそらくわしは…
わっ…わしは…
どっ…どないしたんじゃい…なきそうな顔して……
こらーっなにを話しとるか…
私語は禁じてあるはずだぞ……

とくに 戸川
きさま 今後
おかしな行動を
とると
二度と
シャバへは
でられんぞ…
へっ
いったん脱走したが
外は寒いから
また まい
もどった
などと
我われをなめる
のもいいかげんに
しとけよ…
アホやな
おっさんみたいな
こきたないのん
なめるほど
物ずきと
ちゃうで
わいは……
なっ
なにいっ
ムッ…
へっへっ…
うむ
く…
へっ…
へへ…
はは
は…

おとっちゃんのためなあっ〜らえ〜んやこらと
おっかちゃんのためなあっ〜らえんやこらっ
友子ちゃんのためにもえ〜んやこおらい…
ふ…おもしれえな…
あん…なにが…
おれたちの大将がどんどん上にすすんでいくのがよ……
ふっふ……

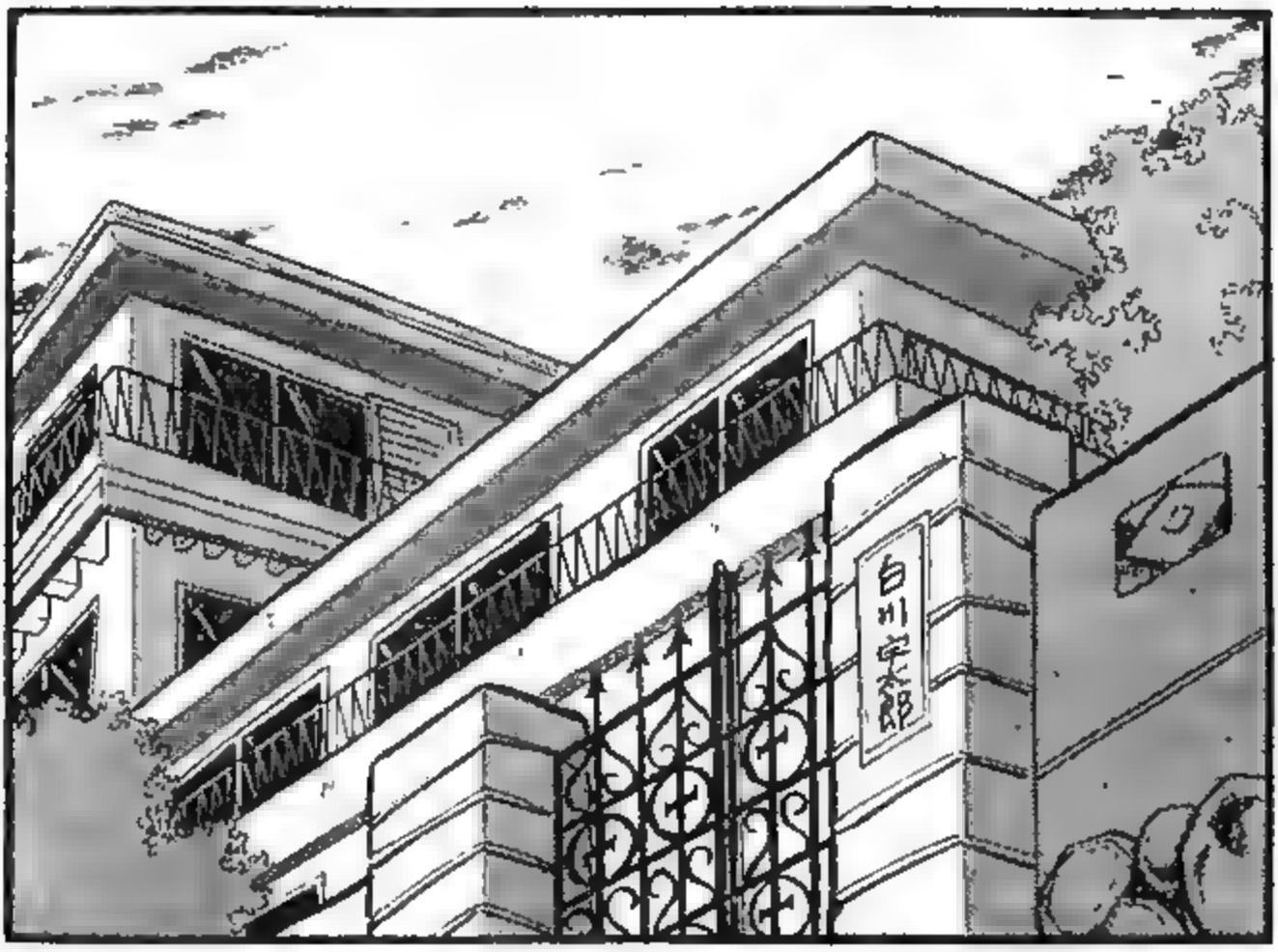
ふつう部屋長になりゃなんの不自由もねえ…
だがそれじゃとまらねえ…
万吉親分総部屋長のいすもねらってるぜ…
部屋長になるまでの苦しさなんかもう忘れちまってな…
よっとこらさっと！
ン…
なんじゃいなにをふるえとんね…
うっ…
あっ…いっ…いや…べっ…べつに
うわっ
ン…

うっ
ほいよ
おみゃあけ
こんど六室の
部屋長に
なったちゅう
のんわ
でっけえ

なんで
なんでえっ
……
てめえ
は……
いかにも
わいが
その
戸川万吉じゃ
わいは
三宝を
あずかっとる
島田や…

これから
部屋長
就会やね
……
ちょいと
頭
かし
てんか…

おんどれも
やでえ～っ
黒沢
うっ…
ふっふふ
……
いよいよ
きらし
よったか…

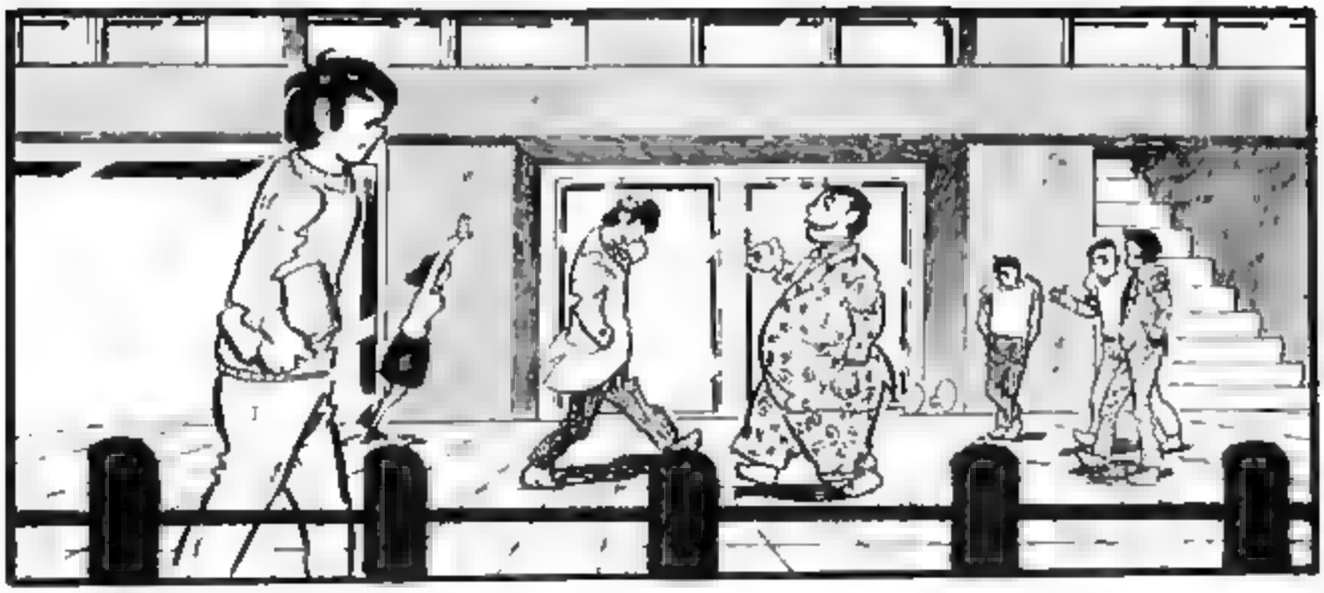

白川宇太郎

ふっふふ…
やはり
失敗か…
はっ…はあ
…
なんとも…

あたりまえ
じゃよ…
そんな
ちゃちな手で
万吉は　しまっ
できん…

殺すなど
と…
なめすぎ
じゃあ
万吉をな
……

ふっふふ
それだけじゃ
あるまい
おばば
はっ
かなり
あこぎな手を
使ってきた
あんたでも
あの万吉だけ
にはは
きたない手を
使いたく
ないのじゃろう
が…
はっ
ぱっ
はは
こっ
これは…
これは…
だが
…
いまのうちに
つぶしとかねば
ならん…
本気
でな…
それには
いまがぜっこうの
チャンス

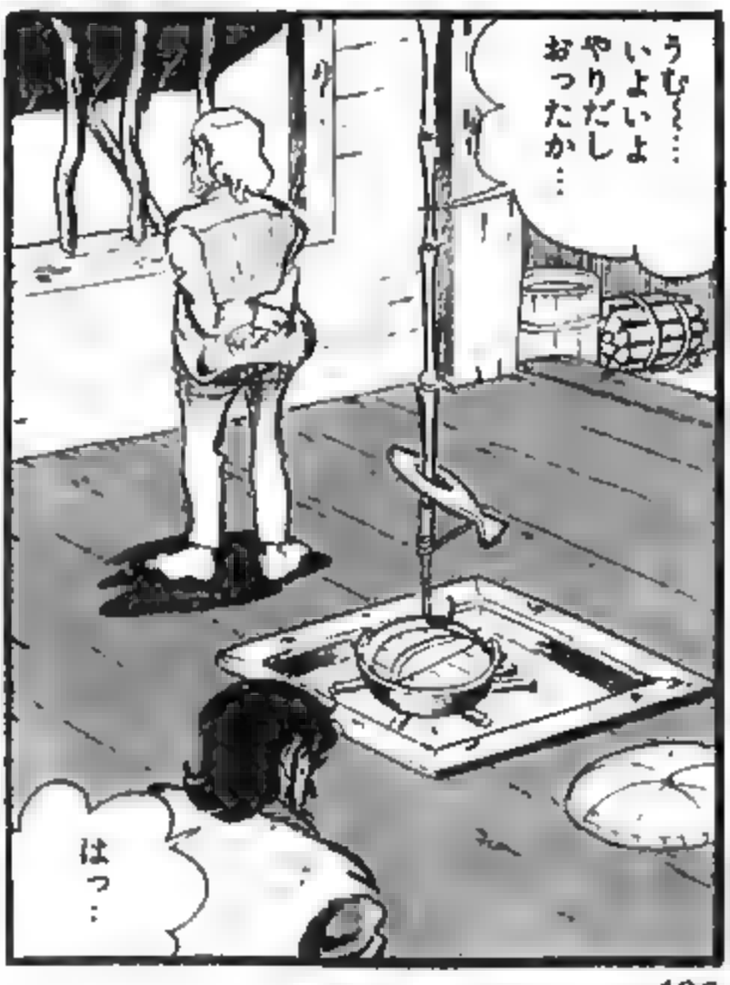


え〜っ
あわれな
浮浪者で…
ン…

おありがとう
ございい
え〜っ
おありがとう
……

な…
なんだ　わしゃあ
なにも　悪いこと
など
しとらんぞ…
つべこべ
いうな
こい！

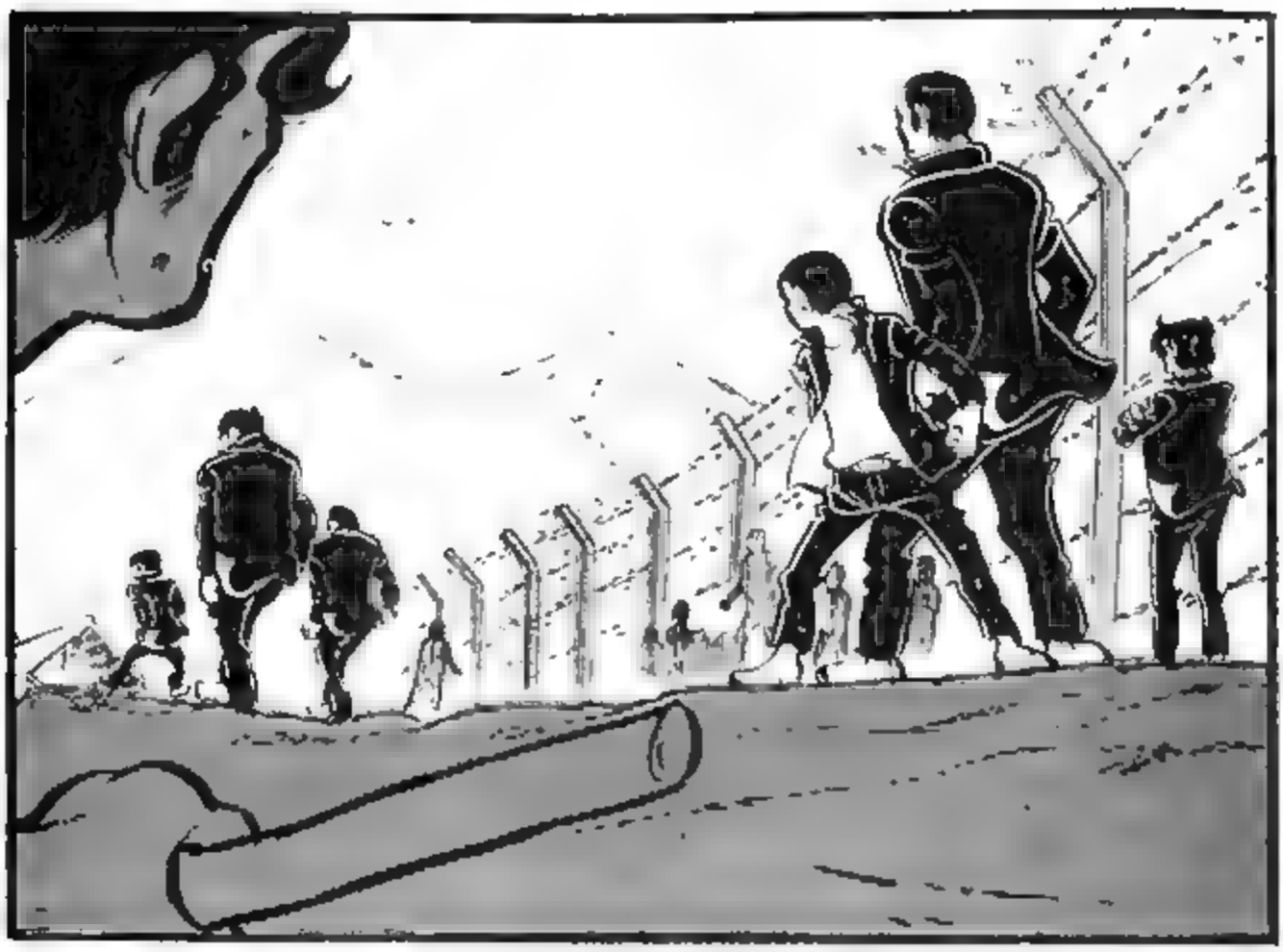
たてっ
……
へっ


うむ～…
いよいよ
やりだし
おったか…
はっ…

東京を
はじめ…
大阪 九州でも
つぎつぎに
進行されて
おります…

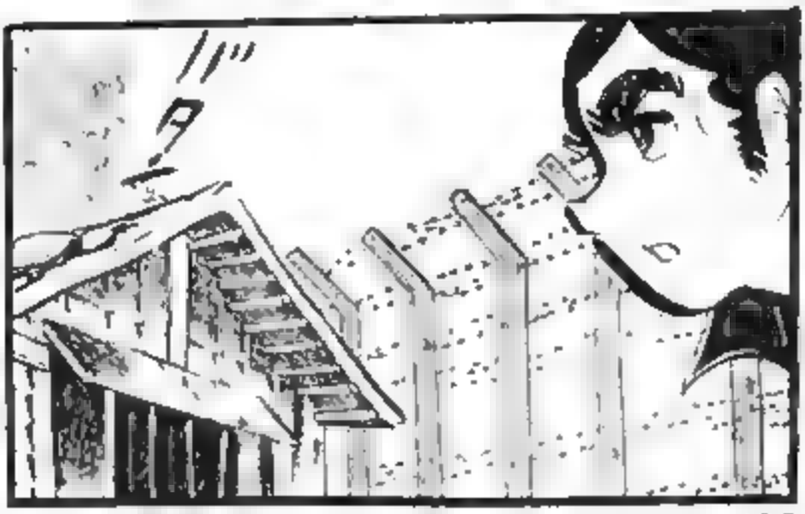
万国博も
はじまり
浮浪者がおると
いうことは
国家の
はじたと
いうことです

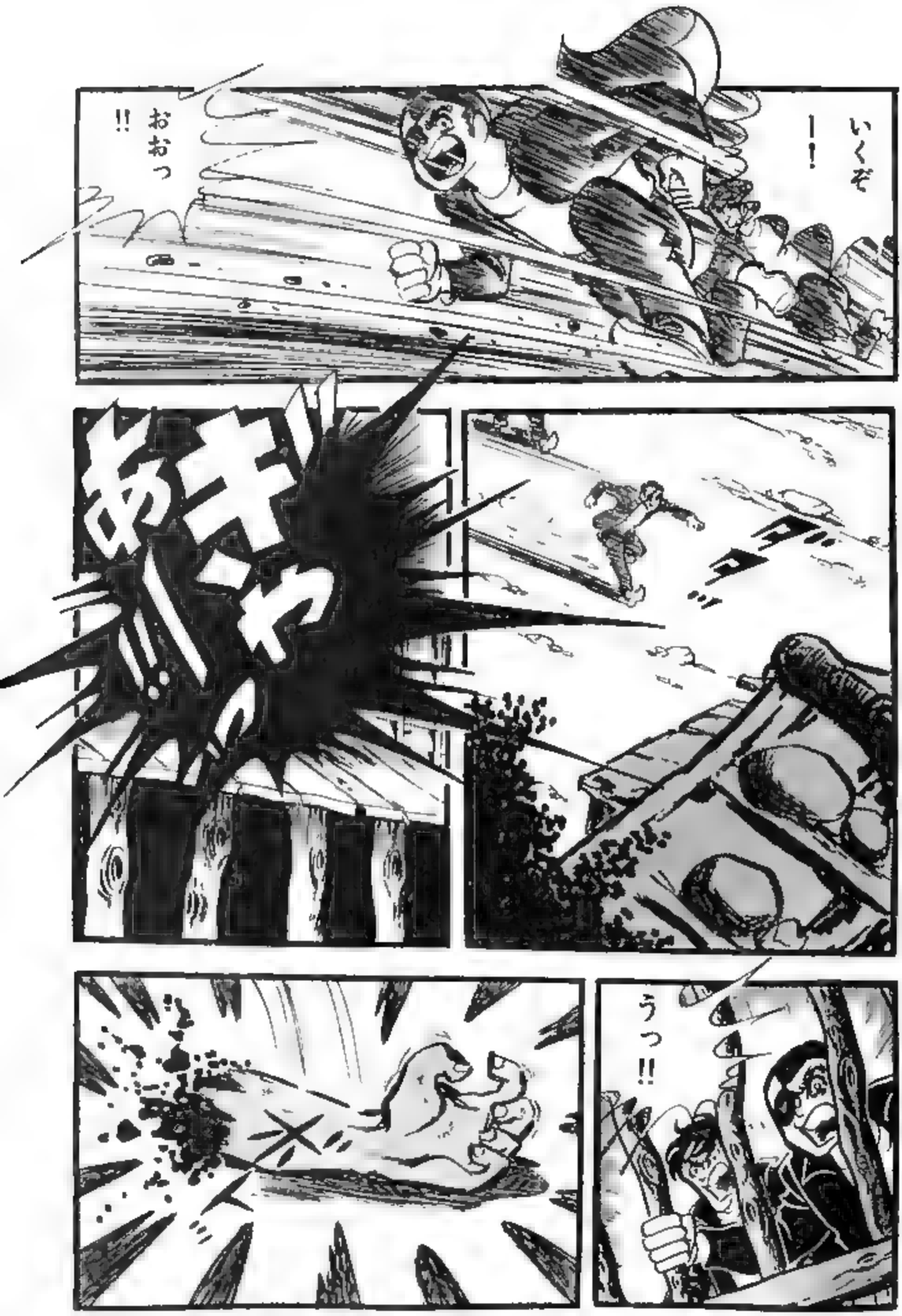
体のきかん者は収容所にいれられ
体のじょうぶな者は 手に職をつけて働かさせる方針だそうです
うむ〜…
まいりました…
こんどばかりは どうにも…
万吉の軍師としては 両足をもぎとられる思いであろうが…
我われとしてはいたしかたあるまい……
おそらく ここも強制的に立ち退きをさせられるじゃろう
おん大将……
うむ〜〜っ



だっ…だいじょうぶかよ 親分ひとりで
あっ ああ…

親分は くるなと いったが

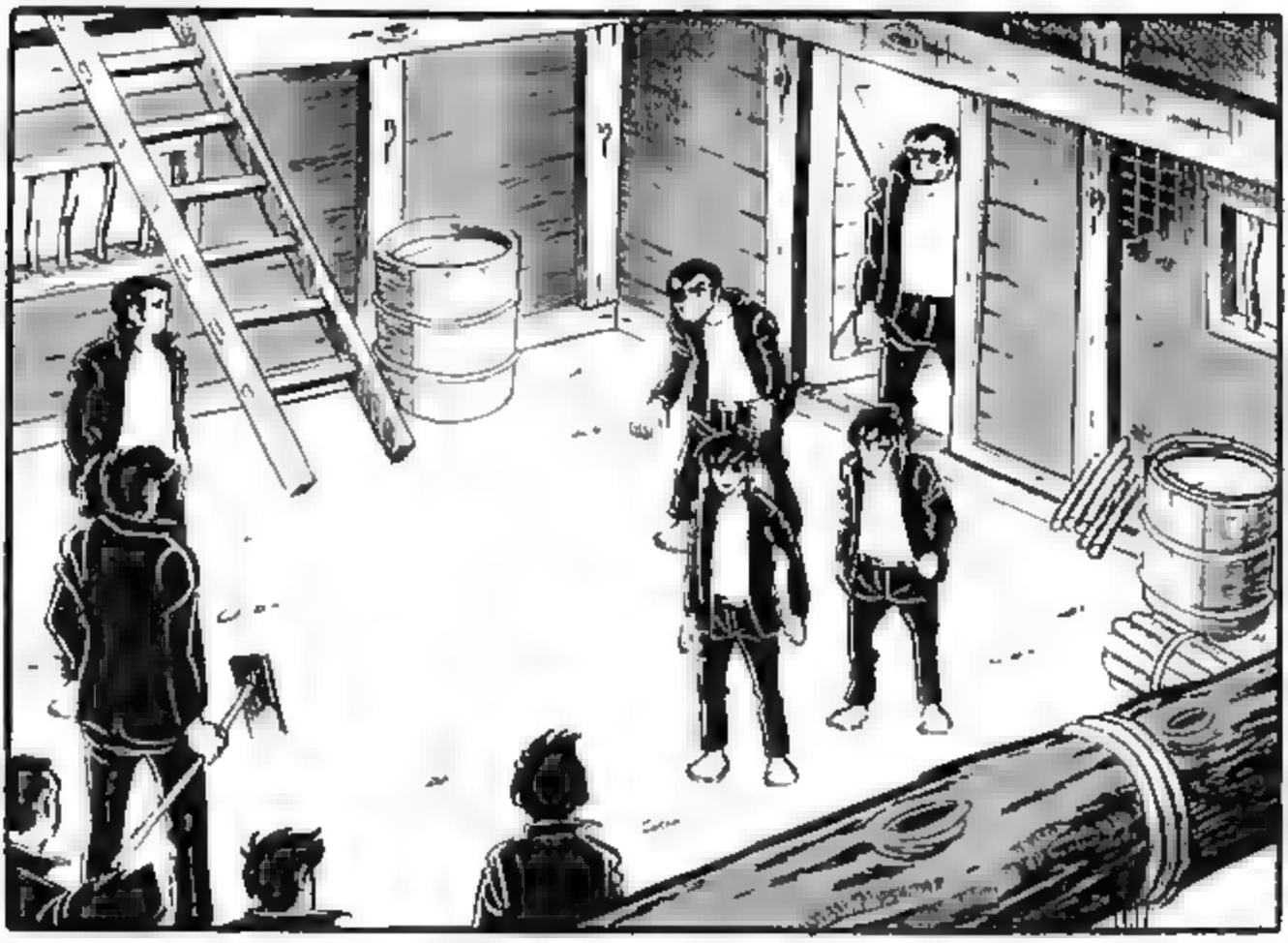



いくぞ!!
おおっ!!
ドカ!!
うっ!!

総部屋長の影の巻

ゴゴゴ
ああ〜〜っ
つれて行け
教官
教官
事故だ事故だあーっ
どうした…
えらいことだあー

うわっ
どっ
どうしたん
だ これは…
へっ…
へい こいつが
草をむしろうと
手をだした所へ
ちょうど わたしが
くわをふりおろし
ちまって…
いっ
いかん
すぐ病院へ
もどって
医務室へ
つれて行け
はっ…
はいー
ふふふ
……
親分!!



なんだ
てめえら

お
おやぶん
こっ…
こ……
こいつら
いったい

帰ってろ
だっ…
だって
…

いいから
帰って
ろっ!!
おっ…
おやぶん

へっ…へへ
へ…
ふふふ
…

ふふ…
ひと部屋あずかっとる者がそれを守りきれなければ
ああなる…

まっ…かわっちまったのは仕方あるまい
あんさんがこんど六室の部屋長や
赤姫山の戸川万吉はん…
ふふ…
ふふふ……

さてと
それじゃ
順に自己紹介と
いくかい
この中にいる
わけか
わいにそっくり
だという
総部屋長
鬼頭政次とか
いうガキは……
そっちの
はじから
じゅんに
いったれや
うむ
一室の
高田万次郎
だ
二室
久寿啓助

わいは
さっき
いったのう
三室の
島田や

五室…
木沢
重明……

四室が
おれだ
赤倉三郎
……

八室……
高松鉄五郎

七室
神崎一平！

九室
村井心次郎

どんじり
十室
大沢
浅吉……

以上九人だ
そして
あんたが 新しく
六室で
つごう十人・

なっ・・
なんじゃい
・・・
総部屋長の
鬼頭とか ぬかす
のんは おらんのけ

あっ
は〜〜ん
そうか

けっ
しゃらくさい
たかが カス共の
総大将くらいで
カッコつけ
くさってえ〜〜

おいそれとは
でてこれん
ちゅうのんけ
なめさらすな
アホンダラ!!

おい ささま
まんぞくと
いうことを
しらんのか…
なぜ そんなに
鼻息を
あらくしやがる!

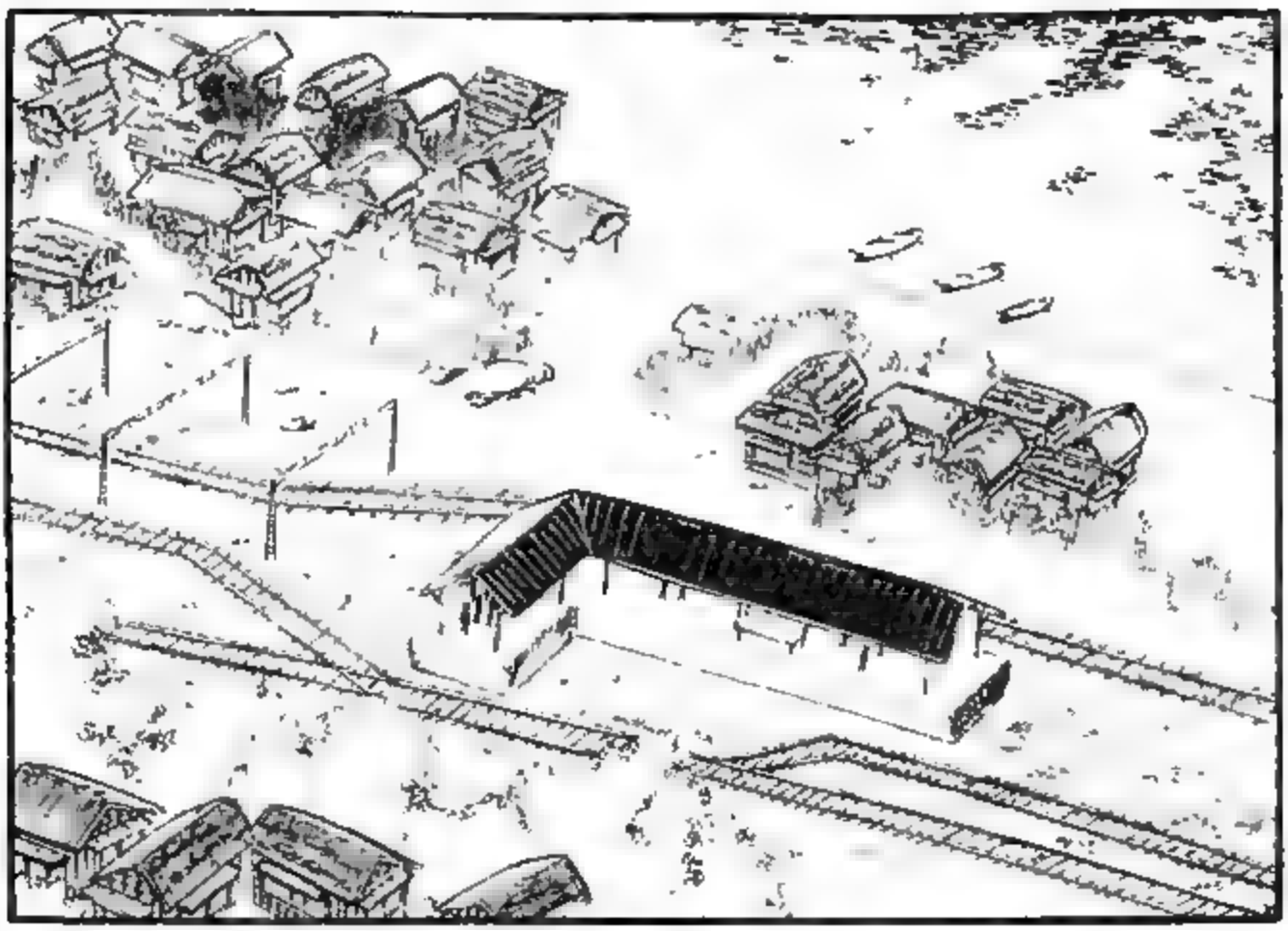
わしら…
鬼頭さんのもとで
皆兄弟分だ
その中にささまも
いれてやろうと
いってるんだぜ
鬼頭さんの
子分として
……
ええ…
兄弟
……

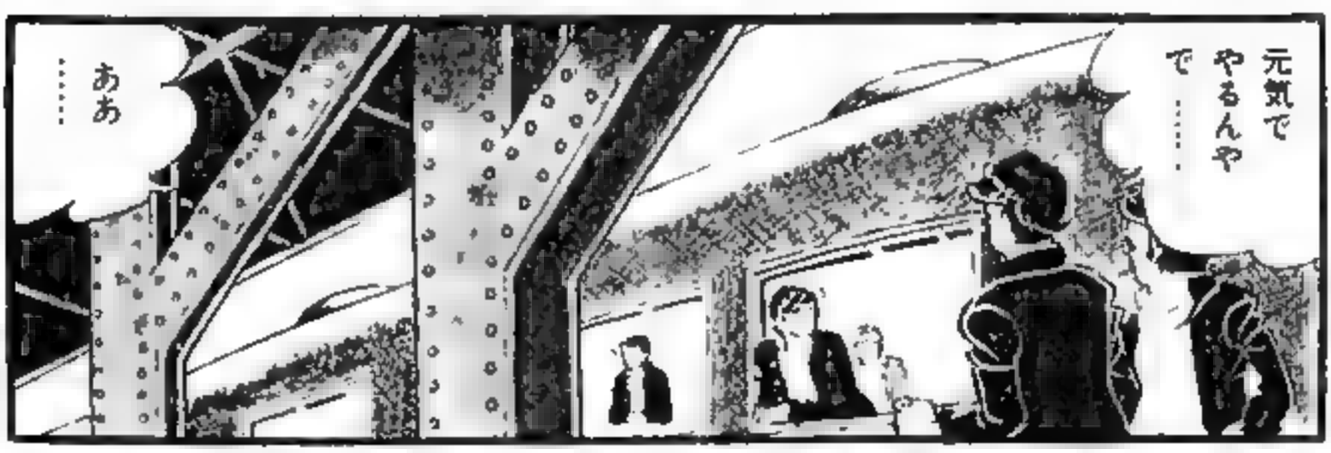
アホンダラ
人をみてものを
いいさらせ…
……
……
人間にはな
人の上に立つ
者と
それを　助ける
者と　両方
あるんじゃ
ふっふ…
おんどれは
人の上に立つ
人間……
だから…
他人の下に
なるのは
いやだちゅう
のんけ……
そっ…
そのとおり
じゃ……
わいは
おのれらとちゃう
一本の柱たる
人間よ…
ふっふ
はは…
はっはは
ひっひひ…
ふっふふ
……
はっはは
はは……

な……
なんじゃい
何が おかしい……
わしらも
はじめは そう
思った……
シャバじゃ
かなりならした
野郎ばかり
だ……
てめえが 柱だと
思っていた
連中ばかり……
それが……
どうにも
……

鬼頭さんのためなら
命も いらねえ
そうなっち
まったぜ……
ここにいる
人間全部
がな……

ちがう…
おっ おれが
いままで しって
てる人間と
ちがう…
なっ…
なんじゃい
こっこれは
いったい
どんな人間
なんだ……
そっ……
その鬼頭とか
いう男は……




元気でやるんやで……
ああ……

なあ松川はん わいら 大阪へ就職するけど
どんなことがあっても万吉一家や…
何かあったら知らせてや……
わかっとる……

うん…わかっとるよ…
みんなも元気でな……

おまえらもな…どんなことがあっても くじけたら あかんで……
わいらは万吉一家やからな！

みんな
行って
まいよるな
……
うん
しゃあ
ないで……
いままで万吉一家の大半は中三やったんや……
みんな 高校へ行ったり 就職したりで……
西海をはなれて行くんや……
しゃあけど…
しゃあけどな……
万吉一家はどんなことがあってもつながっとるんや……
そうやね……
親分がいるんやもんね……
せやけどラッパちゃん
ラッパちゃんかて今年 卒業やんかどうすんね

これから……
アホ・
わいは万吉一家の一の子分や
わいが西海をはなれたらだれがまもるんや
万吉一家を……
うっ…うん…

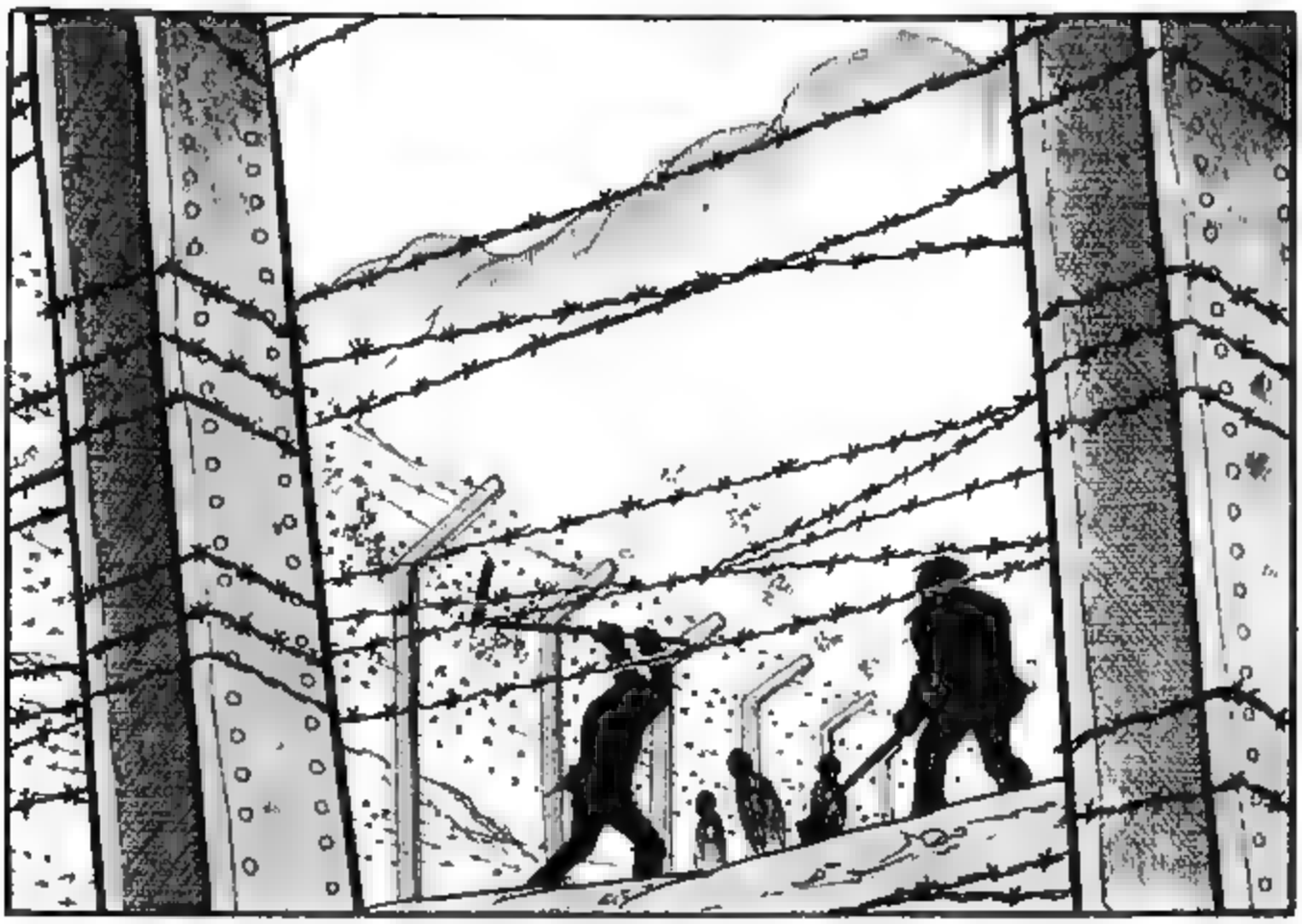
よかった…
とにかく
よかったぜ
万吉親分
やつら
なにも
しなくて
よーっ
それできたんでっか……
その……
鬼頭とかいうガキは……
おい
ヘルス！
へい…
われは　この
特少　三度目
だといった
……
へい
以前も
いたのか
その総部屋長
ってのは…

さあ…
それが…
よく
知らねえん
ですよ……

おまえらは
しっとるんか
総部屋長を…
はっ…
はあ?

話には
聞いてるん
ですが……
そっ
その~~~

顔を知ってる
のは
部屋長たち
だけです…
わたしたちは
まだ一度も
お目にかかった
ことはありません



ケッ
かっこつけくさって
三文役者め…

ぜったいに
あの部屋長の中に
いるはずや
……
鬼頭…

おい万吉……

総部屋長からのことづけだ…

なっなんじゃそっその顔はどないさらしたんじゃい……

ふっふふ
あんたの前の部屋長黒沢に対するしうちのおしかりだ…

鬼頭さんのことわりもなく奴の腕を切りおとしたことのな…
ふっふまいったよ……

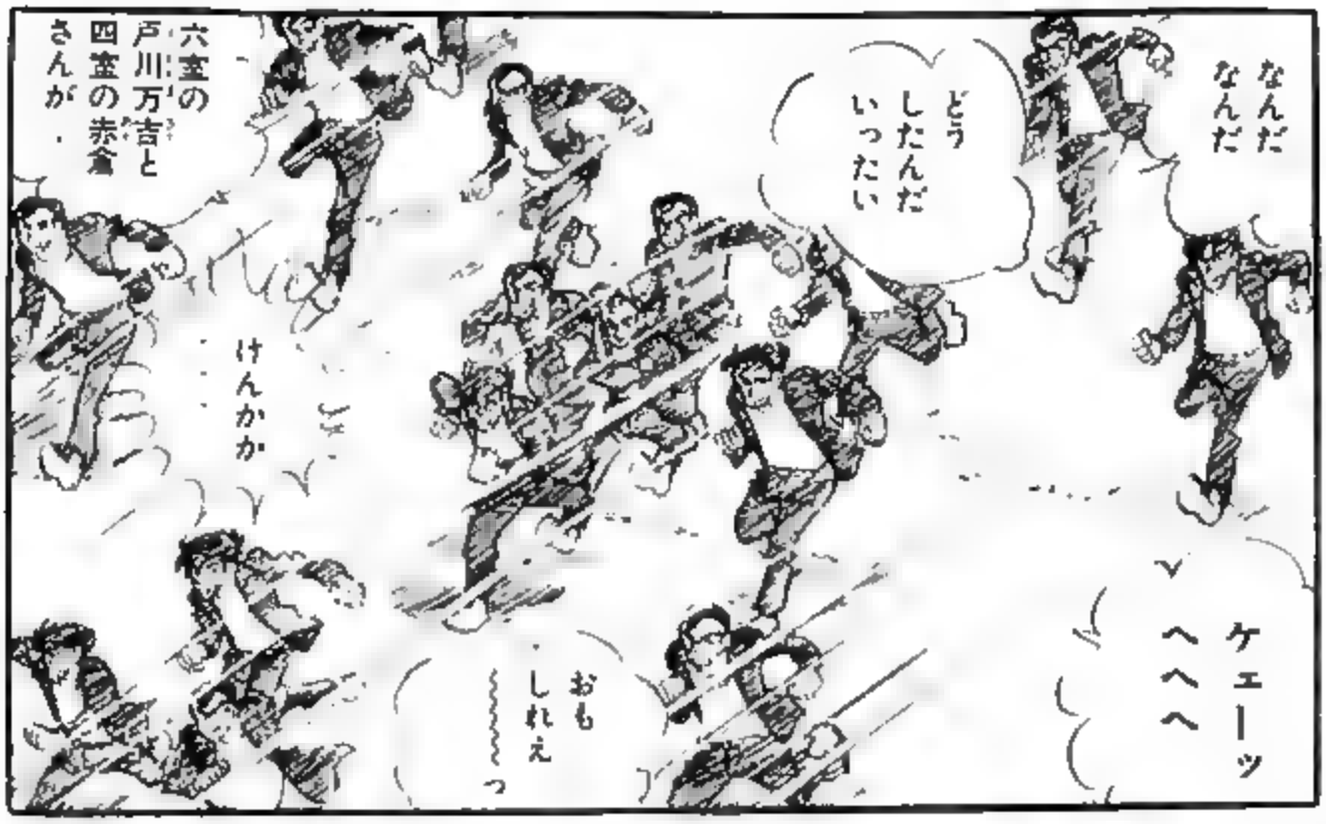
じぶんがやられた時のことを考えろってな…

えらい
けんまくだったぜ
まったく……
なんじゃ……
ことづけって
のは……
ふっふふ
……
万吉
おまえだったら
部屋長になって
とうぜんだ……
といっていた
なっ……
なに……
総部屋長……
つまり鬼頭さんの
イスも
ねらうなら
ねらえ
まっ正面から
受けてやる
そう
おっしゃって
いた
つまり　ささまなど
まったく
眼中にない
あいてに
しとらんのだ
総部屋長は……

くそーっ
だせえっ 鬼頭はなぜ
わいの前にでてこんのじゃ
もったいぶるなくそったれ
ガキめっ!!
うっ…
さわぐんじゃねえばかみてえによ
まったく鬼頭さんにくらべりゃ月とスッポンだぜ てめえ
うわあっ
あっ!!

あっ
おう
——っ
ああ
なっ…
なんだ
親分!!
やった
やったあっ
大将!!
赤倉
部屋長!
だいじょうぶ
ですか?

幽霊名簿の巻


なんだ
なんだ
どう
したんだ
いったい
六室の
戸川万吉と
四室の赤倉
さんが・
けんかか
ケエーッ
へへへ
おも
しれえ
〜〜〜っ

こら——っ
なにやっとるか
そこは——っ

やる気か
赤倉
おう・・

いいだろう
ガッ

ン……
へっへへへ……
おもしれえ……うひひ
うわっ
えっへへへ……
こら――っまたきさまらけんかやる気だな
やめろっやめるんだ……

ケエ〜〜ッ
へへへ
おもしれえ
やったろう
じゃねえか

みわたしゃあ
だいぶ いるじゃ
ねえか……
こいつは 久しぶりに
ふっとばしがいが
あるってもんだ…

万吉一家を
なめるんじゃ
ねえぜっ
てめえらの百人や
二百人 たばに
なって かかって
きても びくつく
おれたちじゃねえ!

ふっふふ
いきがるんじゃ
ねえ
メッカチ野郎
やるのは
おれひとり
だ

なにい
〜〜〜っ

こうしてまわりをかこんであるのは…
教官どものじやまをいれねえためよ…
ふっふふ……
いかんけんかはぜったい禁じてあるはずだぞっ

えっへへひっひひ…
ふっへへへへ……

万吉さん…
ばかなことを
やったもん
だな…
このけんか
勝っても
負けても
四室の赤倉を
敵にまわす
だけだ
あんたが
総部屋長に
なるためには
なるべく
多くの部屋長を
味方にして
いかなければ
ならん……
ひとりひとり
くどきおとして
いかなければな
ふふふ…
ケッ……
なにが赤姫山の
万吉だ…
たかが……
ポリ公とけんかした
くらいで
調子に
のりやがって……
そんなもんは
ここじゃ
通用
しねえのよ…

いくぜっ
三下!!
ひょっ
ほ――っ
やれやれ
――っ
ぶち
のめし
たれ～～っ
たのん
まっせ
部屋長
!!

やめろっ
こら――っ
やめんかっ!!
おい こらっ
中へいれろっ
じゃま
するな……

ふっふ
まかしとけ
……

おっ
おやぶん
……

へっへっへ
ザッ
ザッ

なっ
なんだ
てめえっ
なんの
まねだ

親分
あぶねえ
——っ

なあ……
四宝の……
やめようや
なっ……
なにい——っ

おっ
おやぶん…

勝っても
負けても
あまりいい
気持ちせえへん
で
くだらん
ことやんけ!
けんか
なんぞ……

わいもさっきはついカッとなってしもうた…
かんべんしたってえな……
しかしあんさんかて手をだしたんやし
ここはきれいに水に……
とぼけるなばかやろう!!
うっ
ZOOM
やろ〜〜〜っ
てめえ〜〜〜っ
やめろ銀次(ぎんじ)!!

ふざけるんじゃねえ
うっ
てっ……てめえ〜
ぶっ殺してやる!!
へっ……上等じゃねえか
ぶっころすだあ〜〜
野郎どもかまうこたあねえやっちまえ!!
おお〜〜〜っ
でたか鬼頭……
やめろ!!

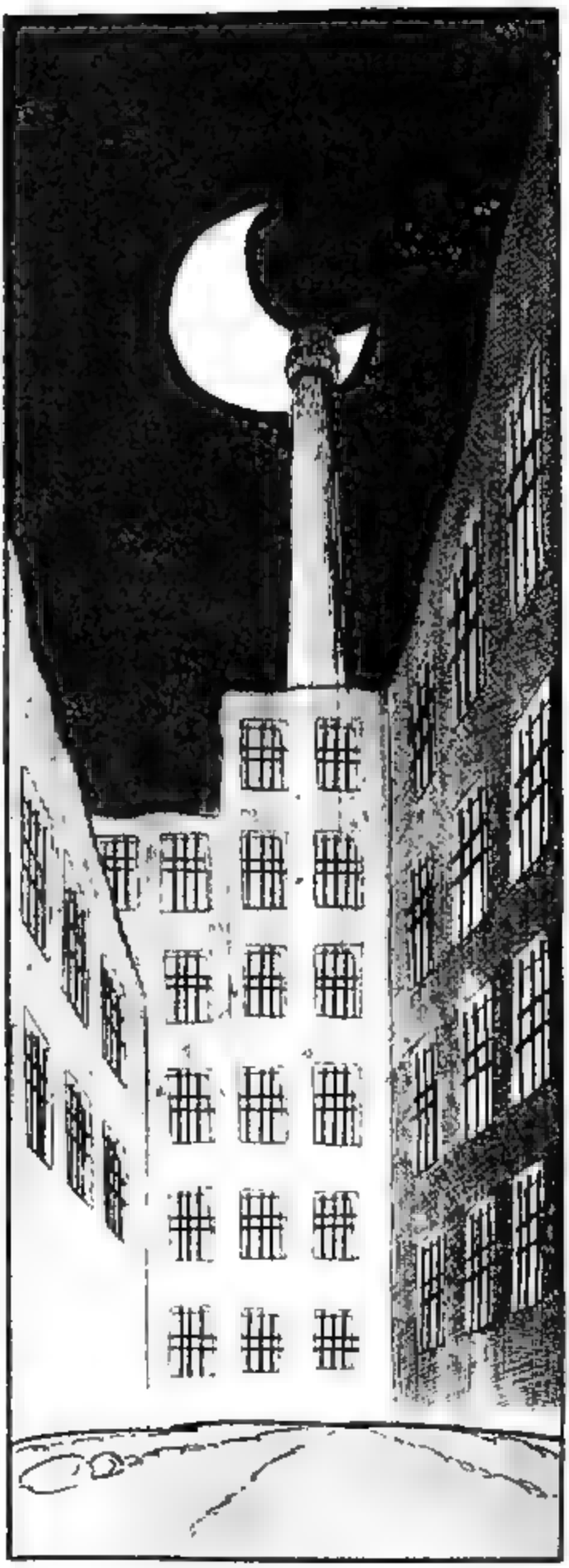
やめろっ
みんな
鬼頭さんの
命令だ
やめるんだ

なにい

鬼頭
さんが
やめろって
そう
おっしゃった
のか……
ああ
……

ちがった……
鬼頭とちゃうこのガキも
やる時は自分で始末するほっとけとのことだ……
なにい——っ
そうか……
やる時は……自分がやる……そうおっしゃったのかへっへへ……そいつはすげえ……
ケッへへ…おもしれえ……
四変の野郎どもひきあげだ……
へいっ……
おっ…おれたちの新部屋長…
あっ…ああみんなからにらまれてるんじゃねえのか…

だいたい
おもしろく
ねえぜ……



あんな三下野郎になめられたままでよ
ぜんぜんスカッとしねえや

なにがいいてえんだ銀次

な…なにがって親分
なにを考えてるか知らねえがだいたいこんなところの連中なんざね力だよ

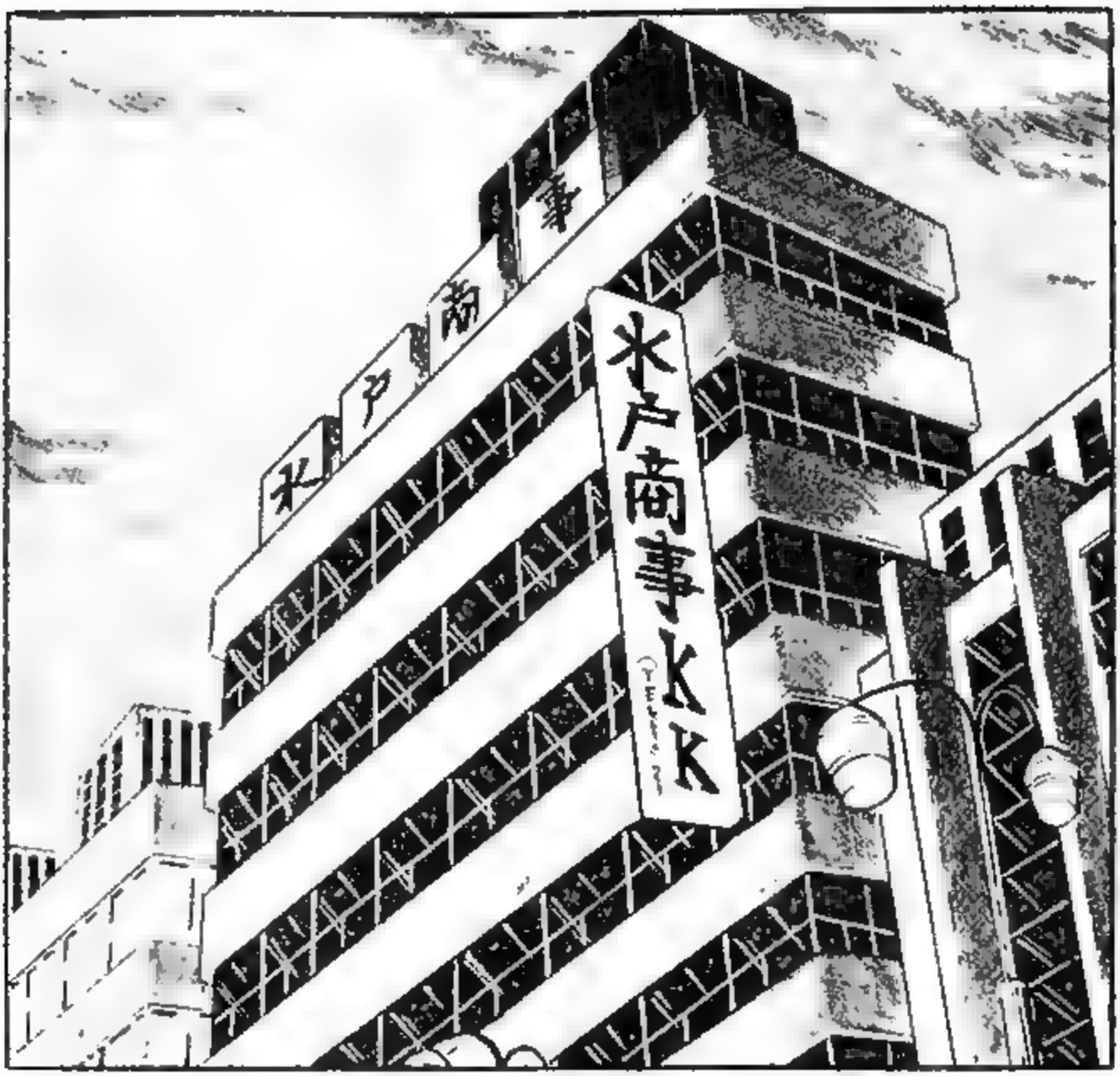
さからったらかまわねえ…
かたっぱしからぶっとばしていけばそれですんじまうんだ…

そうやとりあえずそれが一番てっとりはやいのんとちゃいまっか
やったりましょうや親分
はっ

部屋長連中をかたっぱしから…

まったく
へんなこと
しおって…
仮病を
つかったって
この特少じゃ
なんのとくも
ありゃ
せんのだぞ
腹がいたいと
いっときながら…
どこも悪くないでは
ないか　まったく
ちがいますよ
さっきまで
ほんとに
いたかったんで
すぜ…
まあいい
今後　へんなこと
するとしょうち
せんぞ
へい
どうも
どう
やった
ヘルス
しゅびは
へっへへ…

ぬかりはねえ……
ゴリ
ゴリ
ふっふふ……まったく不思議なやっちゃおまえは…
なんでもすぐ手にいれてきよる……
このとおりできあ…
ふふ……これで鬼頭がいったい何室にいるかがわかる
まず どいつが鬼頭かしるのが先決や……
ふっふふ……


水戸商事KK
水戸商事

浮浪者の組織…どうですかその後…
ふっふ

ほぼ半数にへらしてある

ふっふふ……
かいめつも
あとは時間の
問題じゃよ・

ガチャ

のこるは
昭和ハウス
……

万吉めが
帰ってきて
たよれる所は
あの新建材の
昭和ハウス
だけですな……
そっちは
おばば
あんたに
まかせよう

ふふふ……

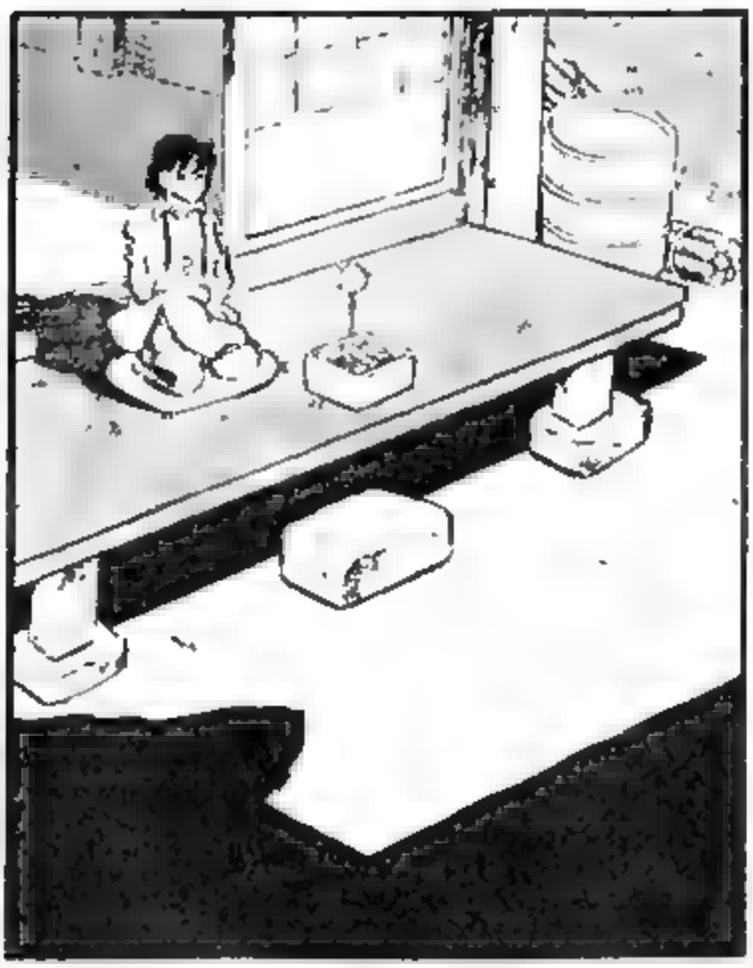
まあ
2か月の間には
のっとって
みせます
わい・・
この水戸の
ばあさんが
腕によりを
かけて……

こらーっ
なんどいえば
わかるんだ
すぐ帰らんと
警察を
呼ぶぞっ……
ン……
どうした
なにをさわいで
おる……
はっ……
そっ……
それが……
ふっ
浮浪……
わっ
ひさしぶりだ
のう
白川……

おっ……
おやぶん
なっ…なんだ
こりゃあ……
いったい
どう
なっとんの
じゃい
こいつは…
鬼頭政次
なんて
どこにも…
どこにも
おれへんや
ないけっ!!

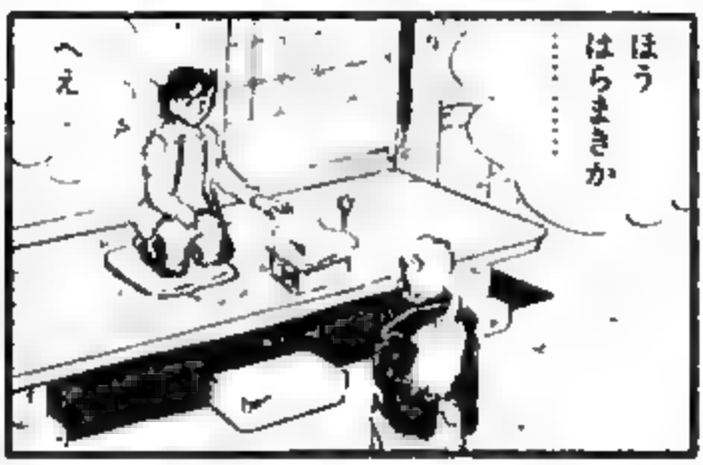
疑惑とあせりの巻

あら



いい日よりになったのう……
おしょうはん

あの子は昔からねぞうが悪いもんですから


ほうはらまきか……
へえ……

ところでその万吉だがのう…
手紙でもきよるかね……

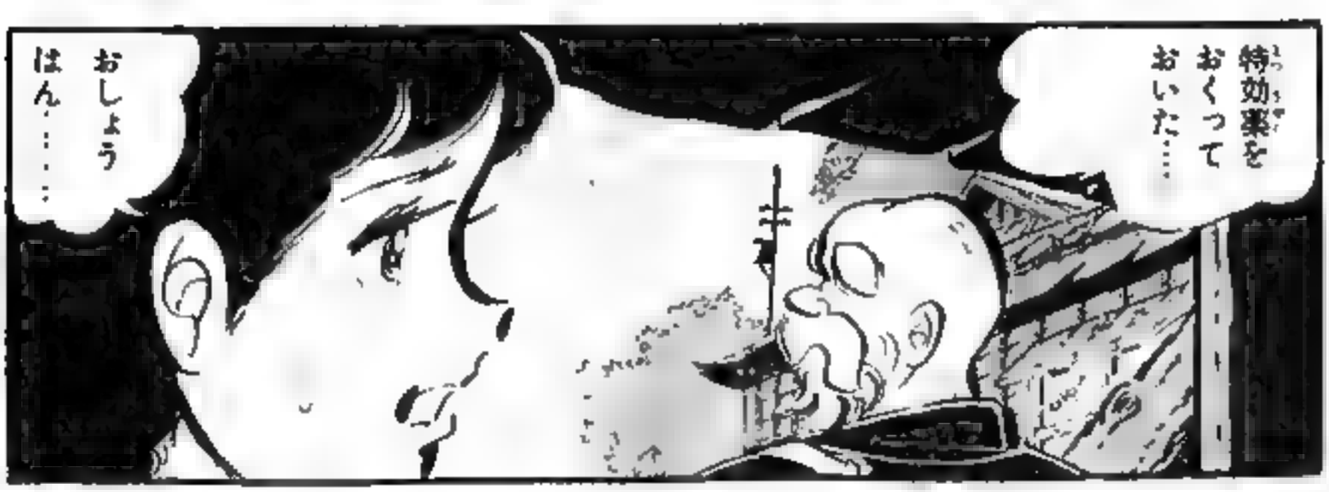
はっははは
まったくあんたにかかっては万吉も形なしだのう

いっ…いいえなにも……

ふっふふ…
奴め
おふくろも
思いだきん
とは…
また
何か
やっちょる
な…

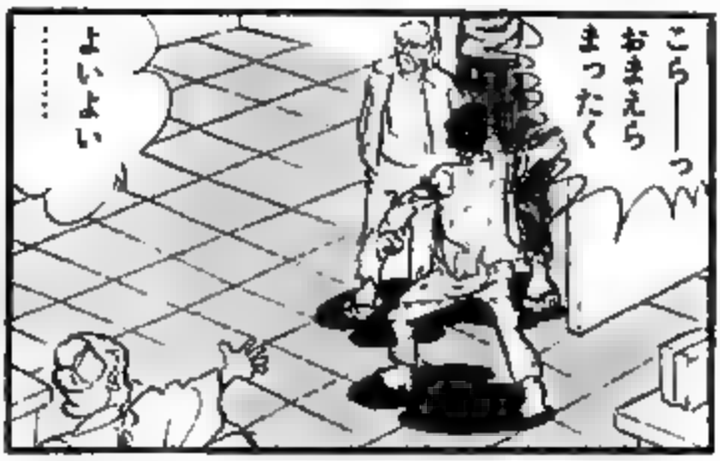
自由の
きかん
オリの中で
……
また
何かに
むかっておる……

はっはは
……
安心
しなされ…


特効薬を
おくって
おいた…
おしょう
はん……

いつも……
すみません！
なあに
わしのたった
ひとつの
楽しみだでな
どれ……
稽家でも
まわって
くるか……
花は紅
柳は緑
……
か……

ひさしぶりだのう白川……


こら――っおまえらまったくよいよい……

知りあいじゃのう坊谷津光五郎……ひさしぶりですなおばば

すると……そのしょぼくれじいさんがカスミのおん大将か年のわりにはシャキっとしとるやんかあんたものうトウガラシばばあ……

なに初対面から……口の悪いじいさんだねあんた……

はっははトウガラシばばあかこりゃびったりだ……あっははは……

ふふ……
たしかいまわしの名を呼んだな
浮浪者に知りあいはないぞわしは……
ふふ……
白川でわからねば……
白川少佐
うっ
ガク
もっもしやあっあなたは……
ふふふ……
有沢閣下！

いやあ
これはこれは
……
なんとも
いやまったく
……
しかし
おどろき
ましたぞ
戦死
なされたと
ばかり思って
いました……
うむ～～～っ
まだ
ずうずうしくも
空気をすわせて
もらっている
とんでも
ございません
……
ひとこと
この白川に
いって くだ
されば……
こんな不自由は
させとき
ませんものを
……
ふふ…

むりをせんでもよかろう……
昔は昔……
いまではあんたは日本財界の一級人物…ふっふふ…わしはただの浮浪者だ

はっは……
えらい皮肉ですなどうも……

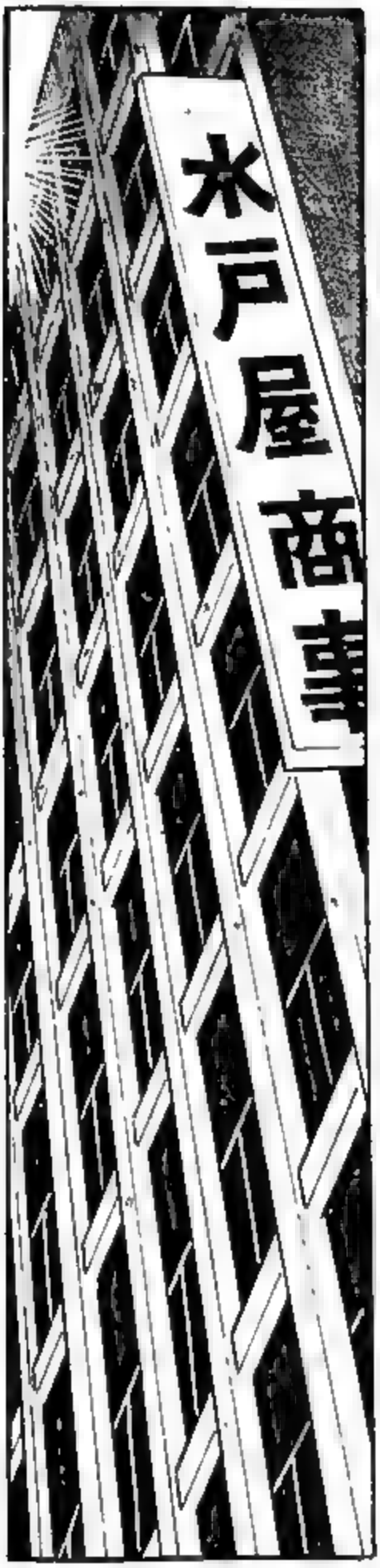
なあに……ひさしぶりにおみしゃんとも昔話でもしたいと思ってなあ
ほ～～～っそれはどうもわざわざ

ところできょうはまたどうして…

それでおからだのほうは……
うむ～～～……

浮浪者というものは 欲さえなければ なんの不自由もない……

しかし……
おみしゃんのような
大物にかかっては
ひとたまりも
ないのう……
はあっ
……？
浮浪者といっても
いろいろな人間が
いる　世間話には
困らんもん
じゃよ……
はっは
はは……
のう……
水戸屋商事の
会長さん……
昭和ハウスは
なかなか
むずかしい
ぞ
うっ……
あそこの
会社は
団結がかたい
……
どこらへん
から　きり
くずして
いく気だね
……


水戸屋商事

まったく
どうにも……
わしのところには
聞きたくなくても
なんでも 入って
きよる…
世をすてた
この老人の
耳には……

いやあ……
まったく
くだらんことを
長ながと
すまなかったのう
はっ……今後
気がむかれた時には
いつでも
来てくだされ

ふふふ
おん大将……
なぜです……
わからんか
光五郎
はっ……
わたしには
かいもく
……
あの白川は
われわれの情報網が
万吉にあるという
ことで 浮浪者の組織を
つぶそうとしているの
ですぞ！
その白川に
我われの情報網の
すごさを
みせつける
とは
火に 油を
かけるのと
おなじでは
ありませんか…

はっはは……
ふつうの
人間なら
そう思う
はずだ……
だがな
……
白川(しらかわ)ほどの
人間に
なると
ちがう……
いまに わかる
見ているが
いい……
うむ
～～っ
ほしい……
ぶっつぶすには
もったいない
すばらしい……
すばらしい
情報網
だ……

ガチャ
もうええんか 鳳沢
ン……
まっ…… 万吉
なんぎやったなあ

ギリッ
スタッ
総部屋長のことですか……
ああ……
われは知っとるんやろ話してくれ……
鬼頭のことを……
ほんまにおるんやろ……
万吉さん……

あんた なぜ
そんなにも
前へ進ま
なければ
ならんのだ…
なんのために
……
じゃかましい
そんなこと
知るかいっ
!!

むり
だぜ……
しょせん
あんたは
鬼頭さんに
歯がたたんだろう
……

あんただって
鬼頭さんの前に
でりゃ 泣き
叫ぶはずだ…
こわくて
じゃない…
男として…

わしゃあ
なんとなく
鬼頭さんにに
あんたが
好きだった……
だが
あんたを
ゆるしち
まった
おかげで
鬼頭さんを
裏ぎることに
なっちまった
んだ…
裏ぎる
ことにな……

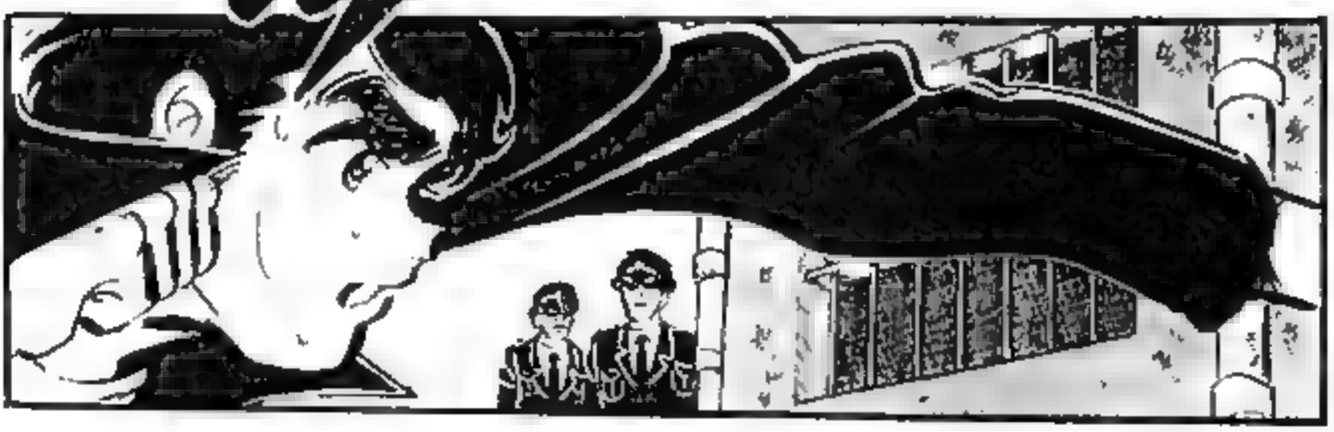
だから
そのつぐない
として……
この左腕を
なくしち
まっても……

ちっとも
おしかねえ
～～～～っ

よしやがれっ
アホンダラ
!!
わいは戸川万吉だ
鬼頭だか ケトウ
だか知らんが…
なっ

鬼頭さんが
あんたに
何をした
親切に受けいれ
ようとして
いるんだ……
あんたさえ…
頭をさげれば
それで
すむんだよ…
そして……
鬼頭さんも
あんたの前に
でてくるだろう
……
ニコニコ
笑ってな……
そういう
お方だ……

うわ
——っ
くそ
——っ
!!



なにを
荒れとる
手紙がきとるぞ…
ほれ…

おい
教官さん
よお～～っ
……

あんたがたなら知ってるやろ……
鬼頭政次を……
鬼頭……
政次……
なあ……頼む教えてくれ……
いったい何者にいるどんな男か……
鬼頭……知らんなそんな男……
いや…それはおそらく偽名のはずや…
この特少の大ボス……
総部屋長のことだ……
しっ……知らんな
第一そういったボスだの何だのはいっさい禁じてある

ケッ 表面だけつくろうのが能とちゃうねんやで
いくら禁じてあろうともおるもんはおるんじゃ……
そして そいつがこの特少を自由に動かしてる……
ばかなことをいうな……
鬼頭は……

やめたまえ…
う……
うむ……

ふあーー
ちくしょーっ
毎日毎日
作業ばかり
させやがって
よおっ……
いいかげんに
あきあきして
きたぜ
おい……
だれか
肩をもめ
肩を…
聞こえねえ
のかよ
てめえら

くたびれてるのは
あんただけじゃ
ねえ……
みんな
おなじだよ
……
なっ……
なにいっ
おれたちは
万吉一家じゃ
ないんだぜ
そんなに イキがる
こたあ ねえだろう

なんだと
てめえ
――っ
もう一度
ぬかして
みやがれっ!!

この特少は
すべて
鬼頭さんで
まとまってるん
だ……
なにい
――っ

ぬかしやがれえ
この野郎
――っ
!!
ガン

てめえら……

おれの命令は
部屋長
万吉親分の
命令だ……
それを
聞けねえって
んだな
てめえら……

ガ"
どうなるか
思い知らせて
やる!!
たばになって
かかって
きやがれっ

なにい
――っ
ほんとうか
それは……

戸川万吉が
鬼頭に対して
むきになっていると
いうのか……
はっ……
鬼頭　鬼頭と
みんなにいわれて
だいお頭に　血が
のぼっているようです

うむ
～～～っ
いままで
鬼頭の前に
たちはだかった
奴はおらん……

とうとう
あらわれて
くれおったか
そういう男が…
さすが
しゃばで
大さわぎ
されただけの
ことはある……
赤姫山の
万吉……
ふふ
……

よお～～しっ……
この特少に
はびっこっとる
鬼頭の根っこを
このさい 徹底的に
つみとれっ！

その
……
戸川万吉を
利用して
なっ……